

根津權現社 上野より五町を隔て乾の方あり

祭神 素盞烏尊 伊産土神 相殿 左山王權現 伊産土神 源家祖神

当社境内始ハ 甲府公 伊館の地あり 根津權現ハ

大樹の文昭と 伊産土神より 伊宮系述あり 故後ハ在の伊館

の地賜り 宝永年中 新ニ当社と 伊館ありて 結構あり 隨身門

は 根津大權現の額ハ 大明院宮と 辨法親王の足蹟あり 舊地ハ千

駟本坂の上元根津と ところあり 祭禮ハ 九月廿一日あり

觀音堂 觀音の左阿山のくまあり 伊陽清水寺の模よりて

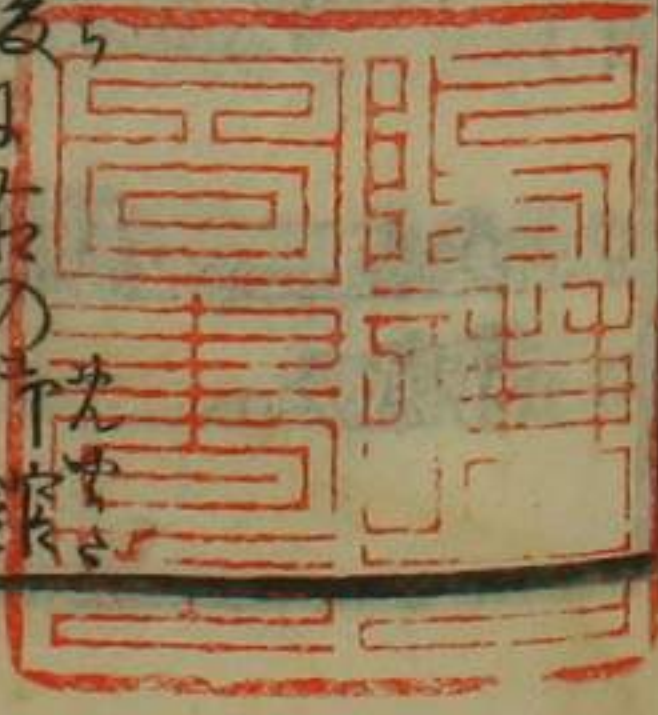
当社境内ハ 假山泉水等と 草本ハ 花四季と 逐て 絶實ニ遊觀

の地あり 殊ニ 門前ハ 賃食店 簷と ありて 清人と 懸ハ 一ハ 酩酊の

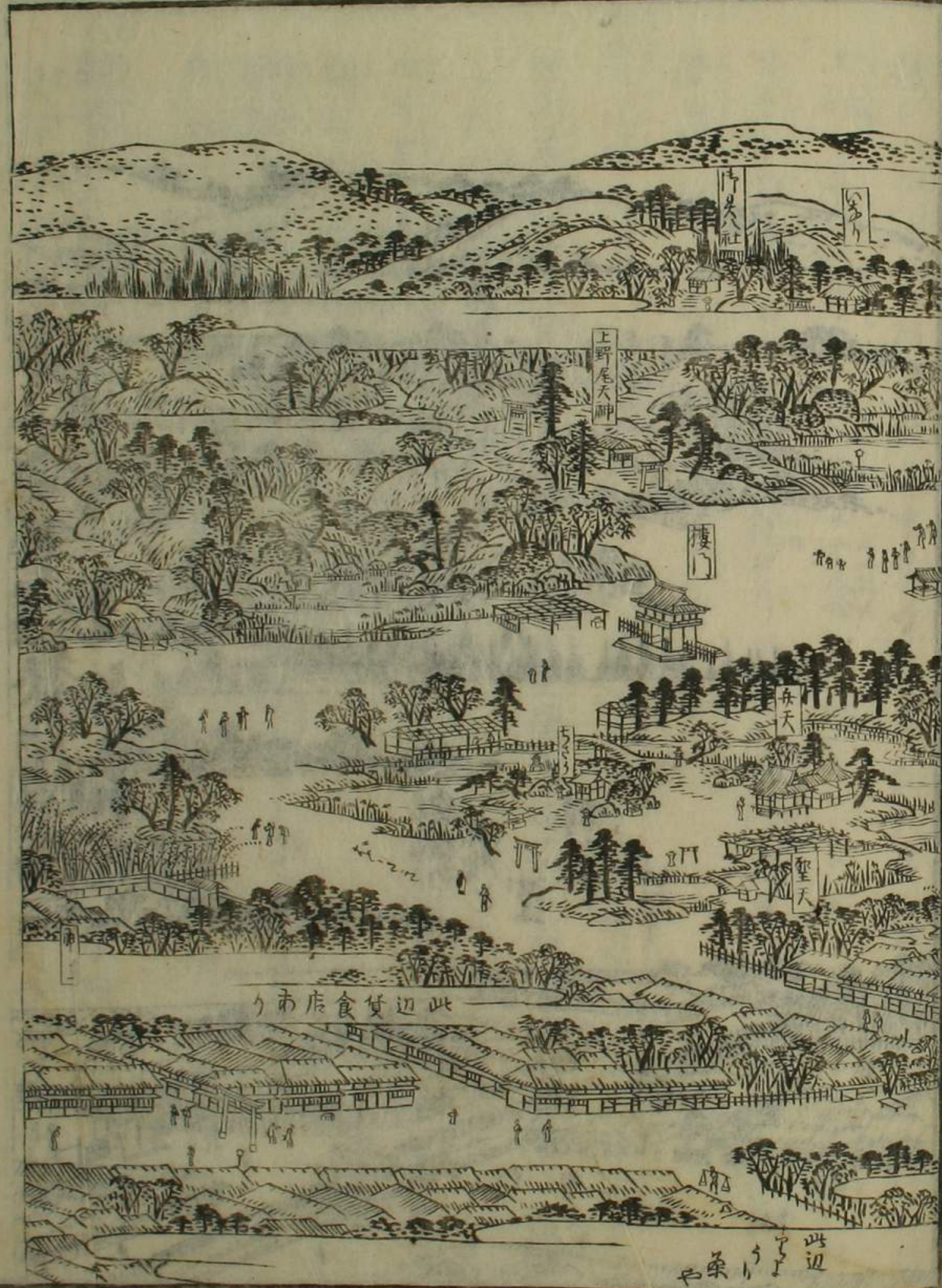
聲聞 漸ち

普賢山法住寺 谷中三崎あり 淨土宗より 奉尊ニ 阿弥陀如来を

安置ニ 完山ハ 幡隨意院了 碩和尚あり 其頂ハ 孤の高徳よりて 貴

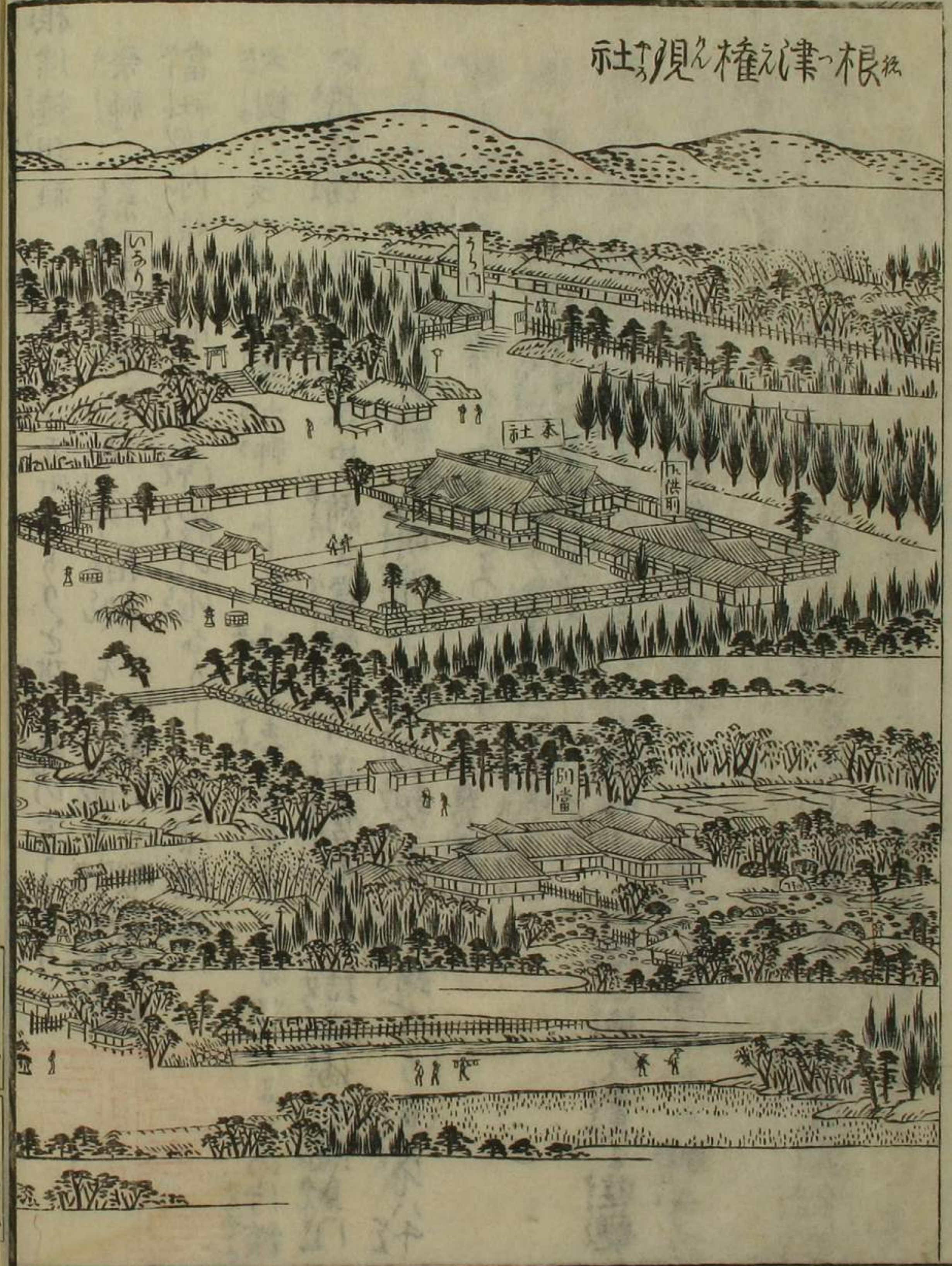






此邊貨食店市

此邊字號



根津權見社

社本

別當





清水

當社の境内と  
曙の里

賤の信仰女がら宝曆年中當寺と草創に其砌貴後男女と擇ハ以  
土破と運小草一貫毎十念と授くこよとひて老若と厭ハ以  
日々群集一不日成就せり此地ハ清浄無塵の佛界にして六時  
禮讚の聲ハ雲風と共に寂々なり

日登山妙林寺 法住寺の西小川を隔てあり日蓮宗にして天文年中

中の草創あり元山日秀上人と正徳年中故ありて天台宗に改め  
られ後海法印と中興元心とい

田中辨財天社 昔ハ田の暇道の草堂に毒置ありと弘孝六年に内海何某始て此社と  
建立せし後記ハ詳あり

顧地藏尊 感得の靈像あり  
延享三年七月八日淺草川より出せし像あり作長一丈七分

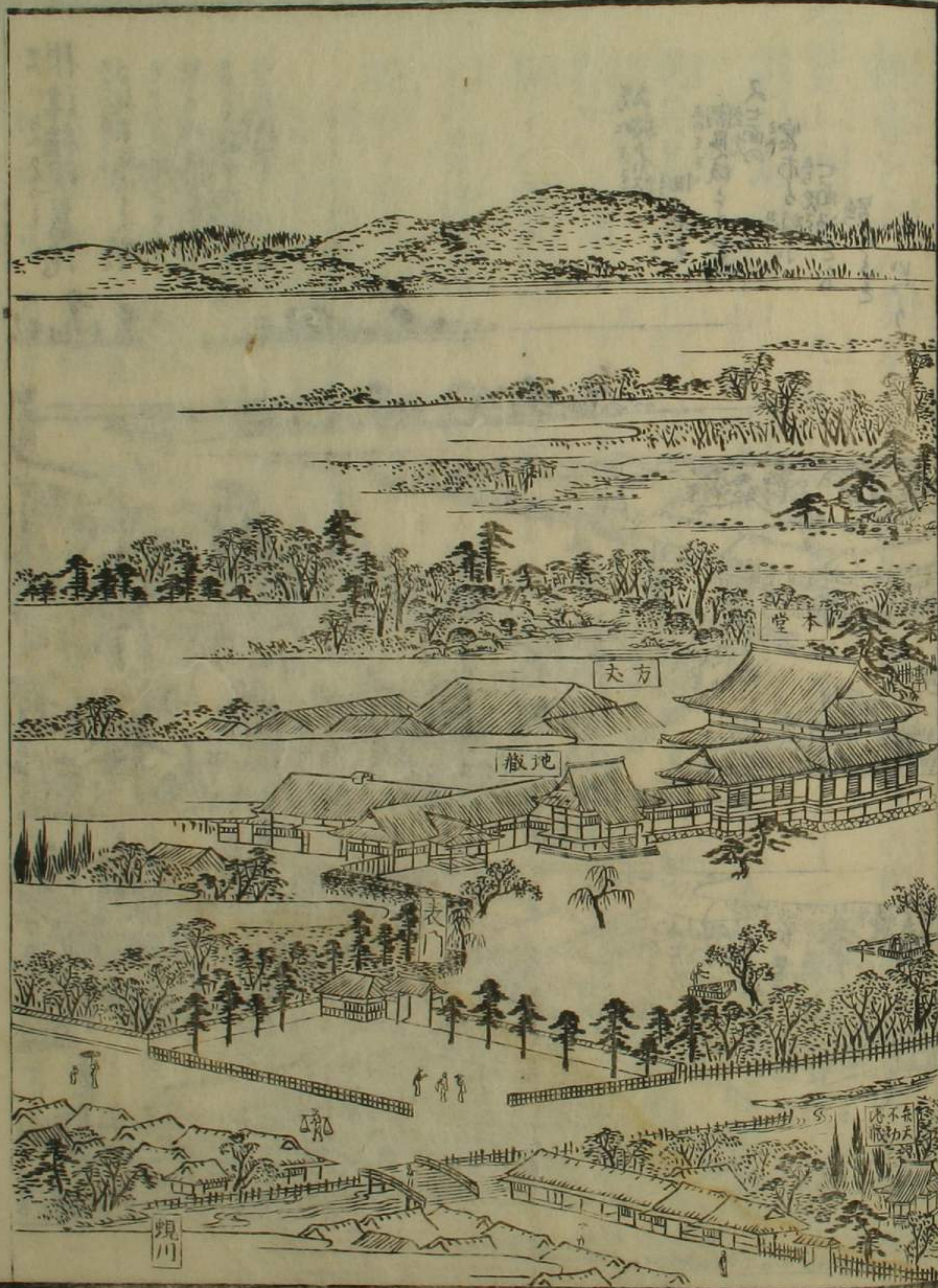
靈驗不動尊 背の面ハ録あり

讀曰金刹石堅 神惠佛救 授福與德 靈驗不動

大同二丁亥四月 空海

大觀音 千駱本七軒寺町光源寺といへる浄宗の寺内みあり和乃以  
長谷寺の寫しして十一面觀音の立像ハ大なり又同堂内み千駱の







根津権現舊池

みづの池のうへに  
おりの池とて  
いり此池に花を  
多く庭中四時草木  
の花はす



又七面の  
宮あり敷小  
七面はとも  
弓矢とも  
いり

大覚山浄心寺

観音と安ん負享子年中江府の高人丸古兵衛かるりれ是と建立及

草創北条五代記み永祿七年小糸氏康と里見義弘と

國府基よて合戦の時資高とめれり妻女の親をり一右田下野守

散して後妻此奉と國大は歎き葬禮終んころよいとあそ後野守と

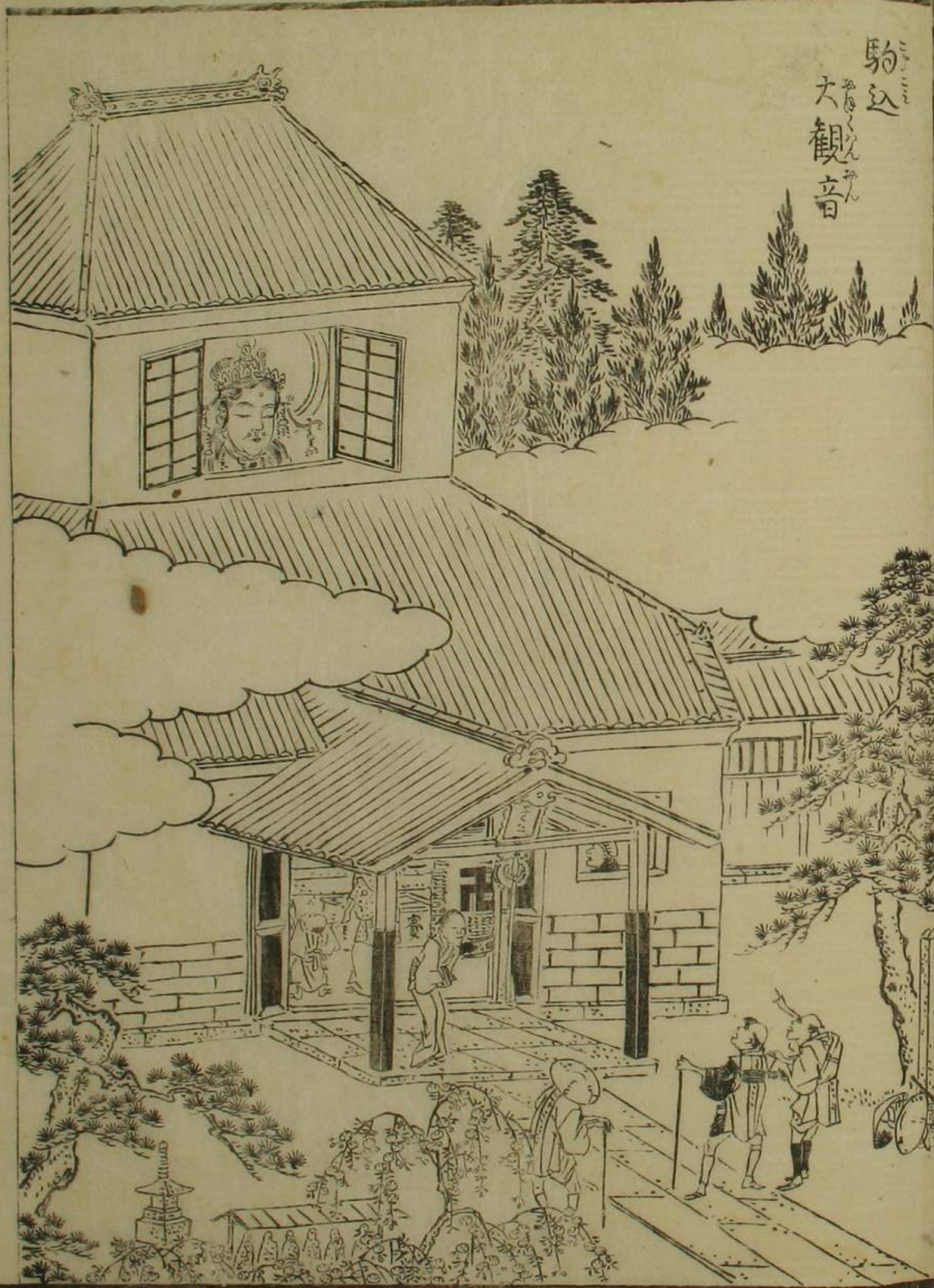
父の菩提の爲は武又神田は浄心寺と建立はと云

神田はありしと小石川より川を後後今の地より川を

接する寺傍に右田資高の室ハ小糸氏綱の女よして康資の母かり依康資母後の

浄心寺鐘銘並序  
古者論州創守文二者之難矣盖無州創莫成守文  
無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号  
大覚開基祖曰成乃以天文十九年創之而九世  
祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大





駒込  
大観音

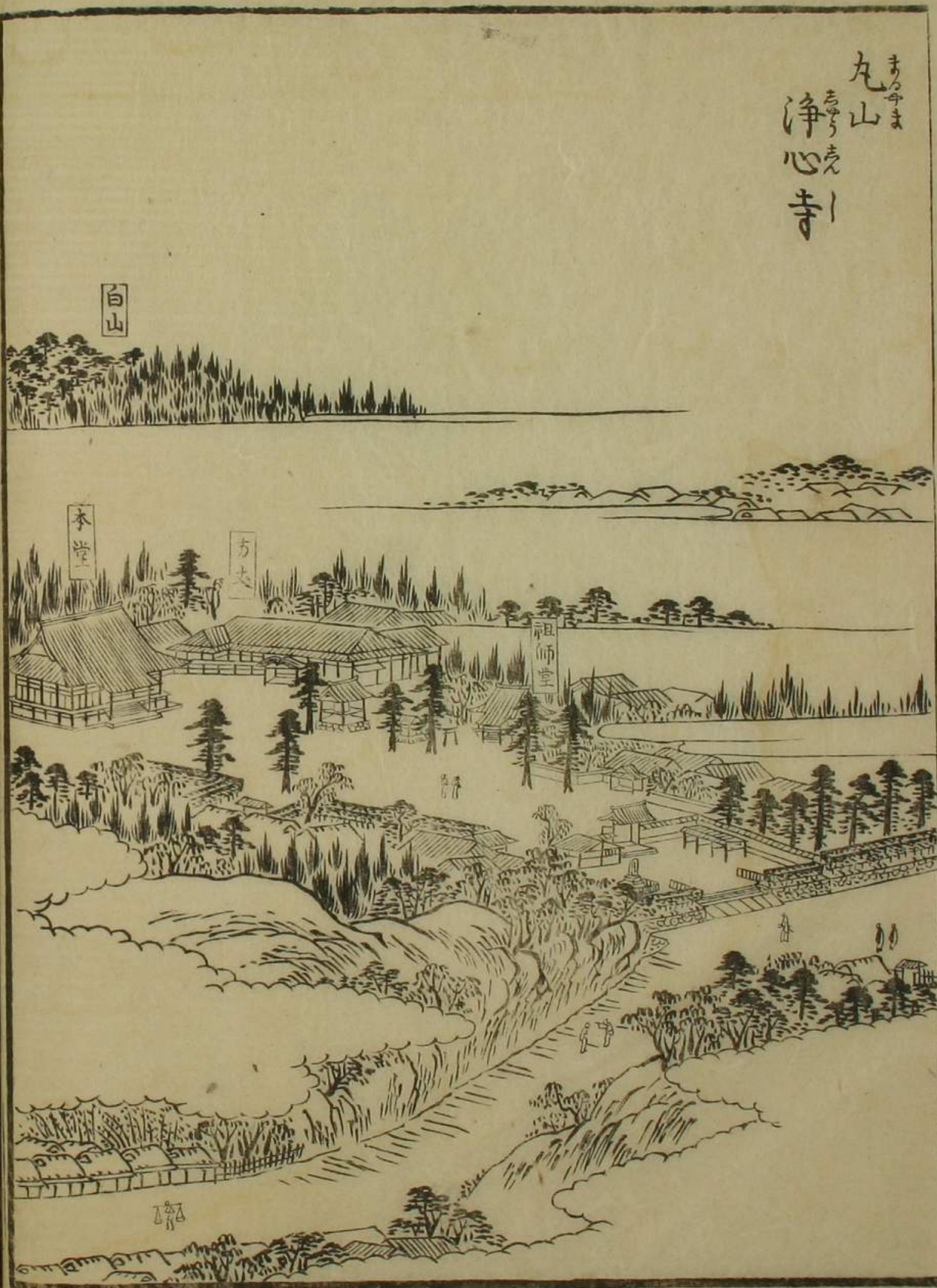
目赤不動堂

供奉せし不動の尊像屢靈換あるは仍て其威靈と恐れ別今これ  
 像以彫刻して彼像と暖籠とす則赤目不動と号し此取一宇を建  
 立せり  
 始千餘本草堂とひすひて安ありしと寛永の頃大樹作放翁の物  
 今取の取よ地と賜ふ千餘本草堂とひすひて安ありしと寛永の頃  
 のありし後年終よ目黒目白と對して目赤と改むとそ

揚再興之新蓋淨因野感未  
 院煥乎新成矣夫極智所照  
 所而古不礎塵利者我分知  
 日也昔之府内之遠近而外  
 此觀之今日之開地易日之  
 也且所以云州創之基今城  
 古之所謂焉有斯創守文而  
 右斯成人乞銘於斯處焉以  
 矣鐘成真因銘於斯處焉以  
 淨心爲真因銘於斯處焉以  
 以名山與寺光始已大余處  
 如々常寂光使擊無東西鼓  
 善斯備晚成土器音聲作佛事  
 共莊嚴無明睡  
 醒淨佛因  
 殿方丈及厨庫書  
 法界遠猶如由今  
 均殊之遠封疆  
 是均殊之遠封疆  
 外是均殊之遠封疆  
 弘名外是均殊之遠封疆  
 大茂一我時我由今  
 法半相我時我由今



丸山まのやま  
浄心寺じやうしんじ



諏訪山吉祥寺

同取壹所と有り北の方より曹洞の禪宗よりして江戸

檀林の一あり園て辨檀林と号し説話明神の敷地を破る説話山と奉尊ハ

釋迦如來冥山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長禄年中右田持資

江戸株と管一頃かこ井と堰一土中より吉祥増上の文室

あふ銅印と得をり依古瑞ありとて二宇と建直は吉祥庵と號く

其後北条幕下遠山丹波守中興ハ天正年中所株

所遠管の時五代目用山所尚神田の臺と賜ひ寺願等と附せられ遂に

明暦三年今此地よりさる水道橋ハ當寺神田の臺あり一頃の裏の地ハ

寺橋と記せり

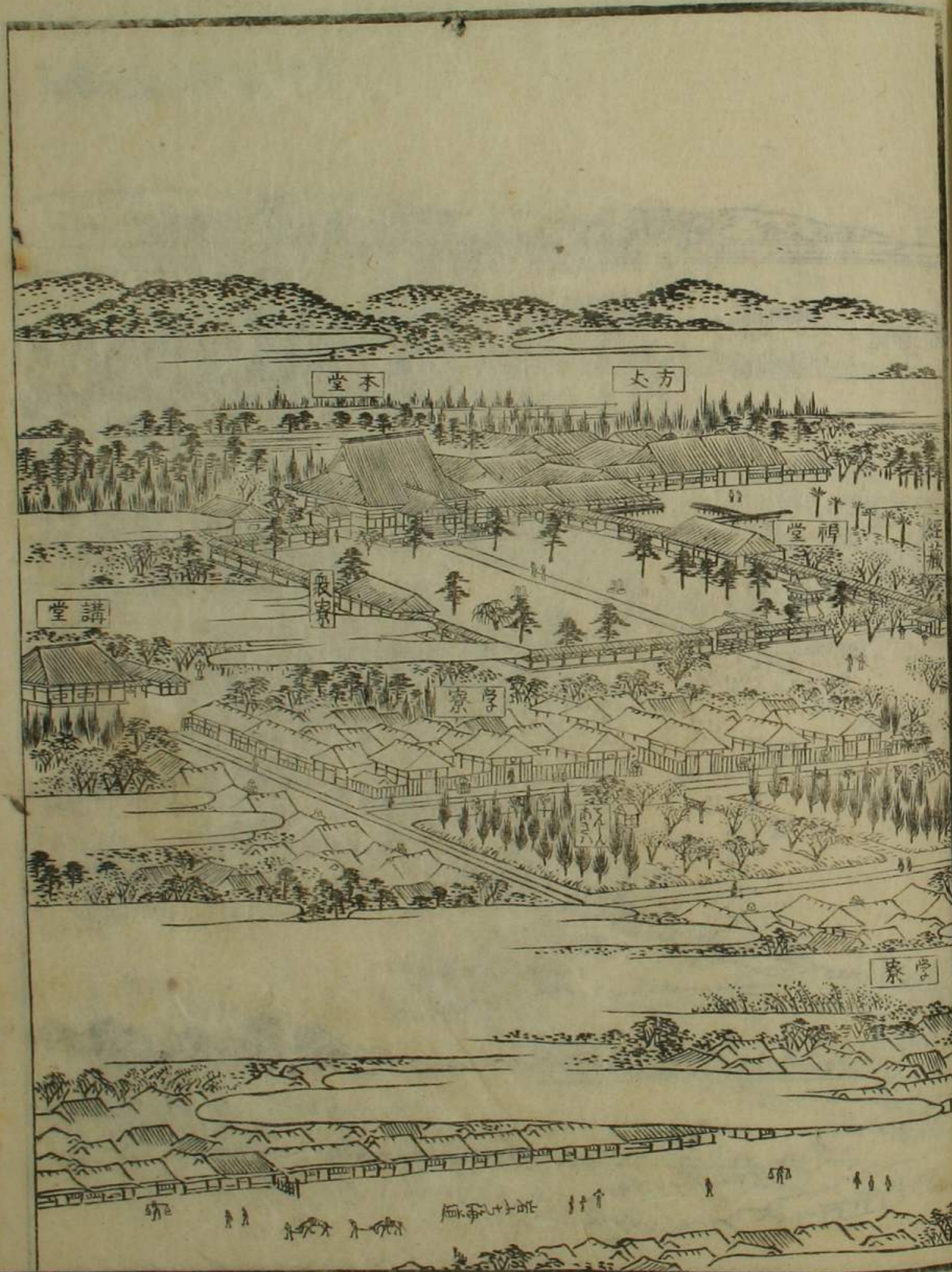
駒込神明宮 同野二下より北の方より社傳云文治五年右大將

頼朝公奥羽征伐の時靈夢の事あり其朝此ありは社地を

求め索り一松株の枝ハ大麻のぐれるあり公是と拜一の是靈

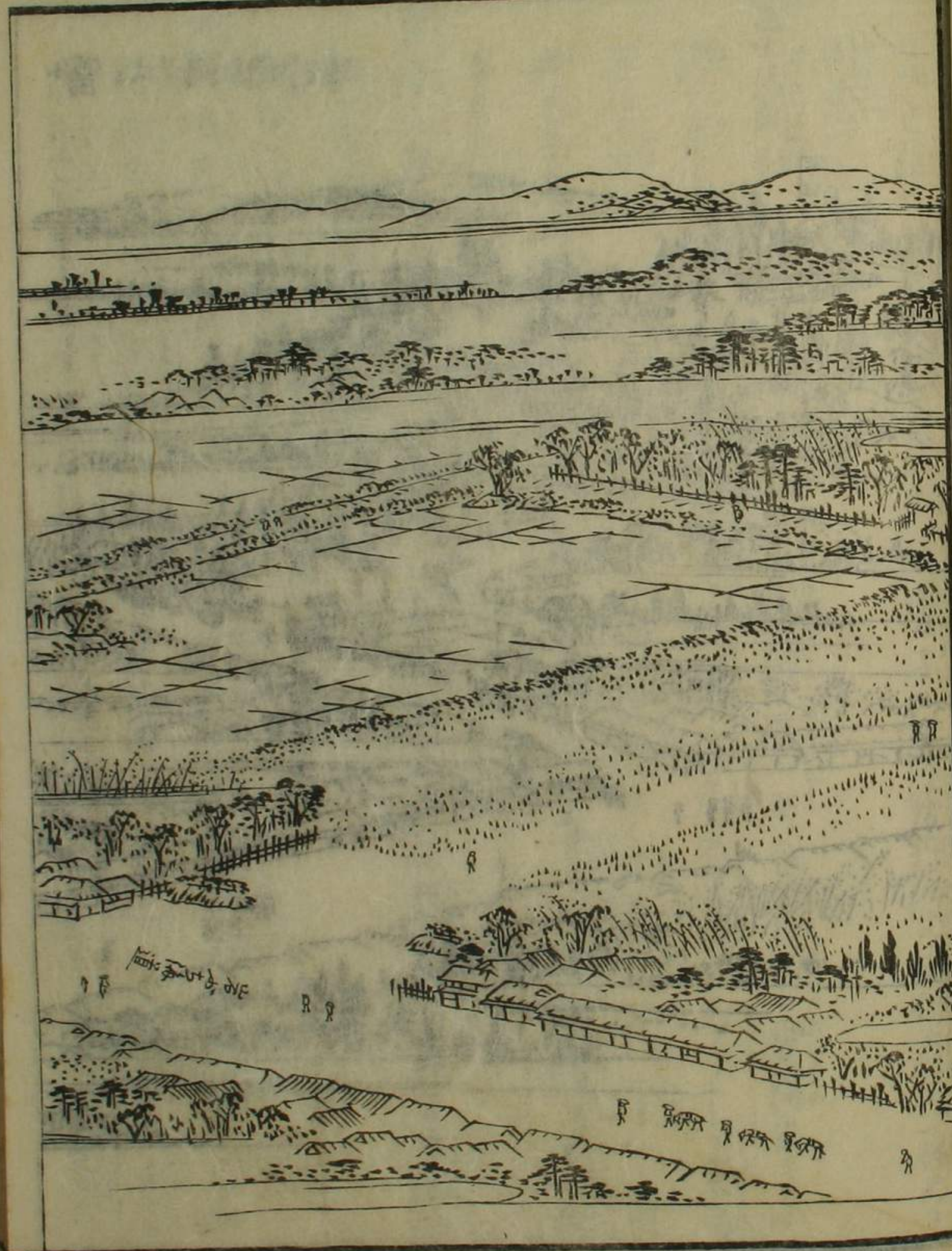
夢の應ありとて直其地ハ神明宮と勸請はと云 其後多くは星





吉祥寺  
 表門の内左右  
 並木の橋ハ  
 其昔  
 以より極させ  
 七も去時  
 櫻  
 たり





駒込神宮明宮





富士浅間社



霜と淫て破壊よとよひ一城慶女の頃塘丹波守利直再興あり

例祭ハ九月十六日あり

富士浅間社

同取あり祭神本花冠邪媛一坐あり往古靈瑞ある小

仍て是と鎮坐といへり當社昔々加刀切彦の後園あり一寛永

年中今の地は迂る毎案六月朔日祭禮して前夜より詣人多く道

傍にえり此地の産物として麥藁細工の蛇ありひよふ庭五文の網

あつとと鬻く

寶珠山與樂寺

田畑村あり真言宗として奉尊地藏菩薩ハ

佛ユ春日の作瓦心行基大士あり

阿彌陀堂 奉堂のたのふあり奉尊ハ行基菩薩の作

田畑八幡宮

同西の方あり田畑村の鎮守とす相傳ふ文治五年

頼朝公勸請す昇駒込神明宮と同時の落座なりと云別當ハ真言

宗東覺寺と号して弘法大師の作の不動尊と奉尊とす瓦心ハ

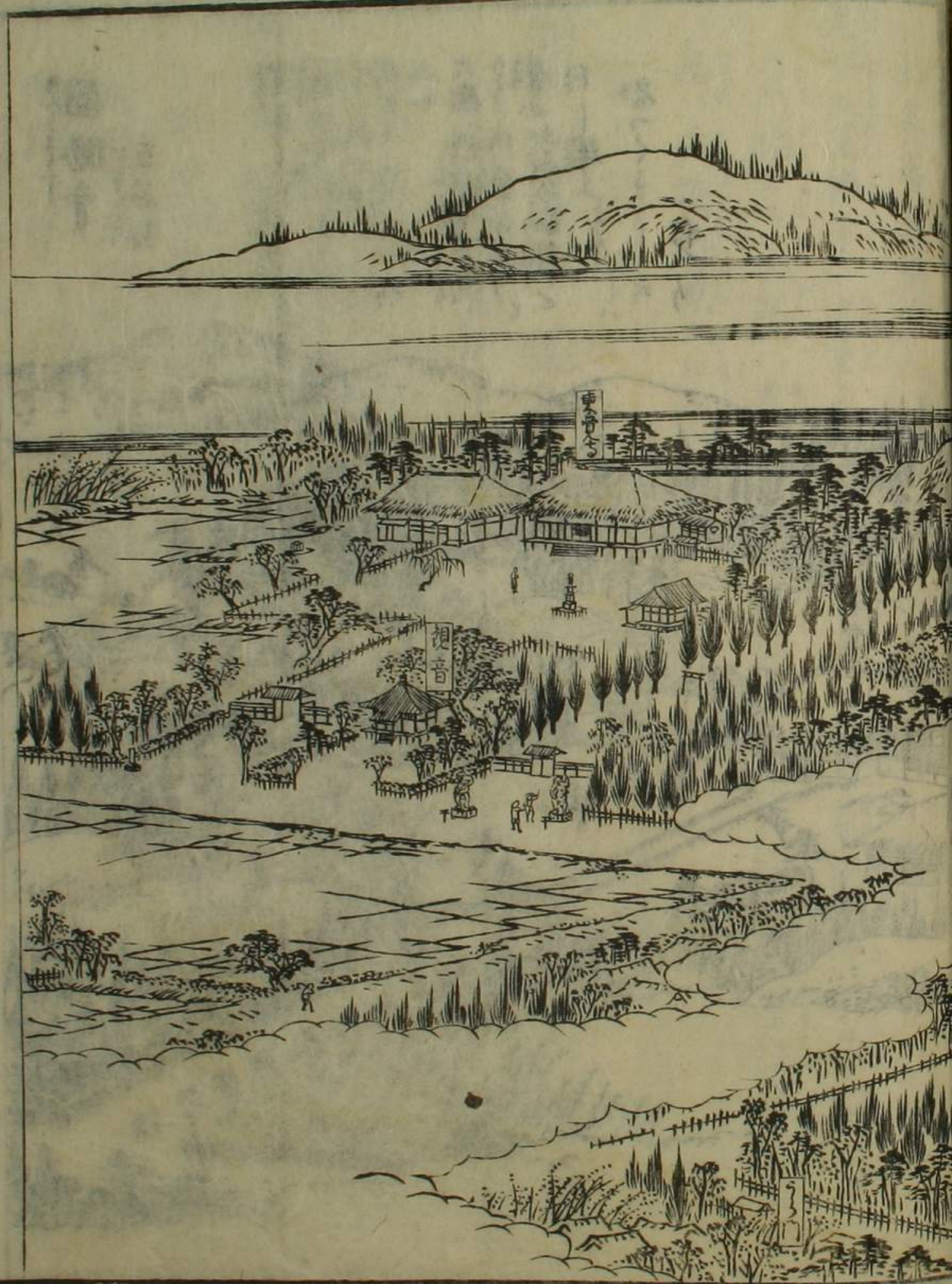


六月朔日  
富士詣

前夜より詣人多く  
甚賑つり此日夕  
蒙細の蛇争ひ  
玉麻五文の細を  
と鬻ぐ







宮幡巻廻





圓勝寺  
五石松

當寺に五石松あり一  
株の古松あり一  
枝ハ枯れて今ハ  
存せり慶長の頃  
大樹 寺放翁の折  
李ハ 寺裏向あり  
下ハ 鹿の行と  
谷つくまう云  
伎り



行基菩薩あり

光明山圓勝寺 中里より浄土宗より奉尊阿彌陀如来ハ慈覺大師  
の代脇士ニ菩薩ハ惠心僧都の作り瓦山ハ深蓮社聖法上人當寺  
始ハ津埜内竜の口あり一とそ

勢至堂

奉堂の右の女の上あり三尊の深陀佛とある俱小佛ニ春日の他より今  
故ありて勢至堂と唱へり

藤林山西福寺

條井村小あり真言宗より奉尊ハ阿彌陀如来

と云く徳一大師の作り當寺ハ狭女の地ありといへともを殊勝の林凡

刹あり

條井稻荷社

奉堂の左小あり往古より鎮坐ありて條井一村の鎮守也此亦深井と  
号泉あり今ハ水涸て其跡と云ふ村と條井と云ふこの泉ありとそ

佛寶山無量寺

西光院と号し同原北の方西原小あり真言宗より弘法

大師の作の不動尊と奉尊と云く瓦山ハ行基菩薩あり奉堂小あり

南無阿彌陀佛の額ハ幡隨意院了願和尚の筆あり

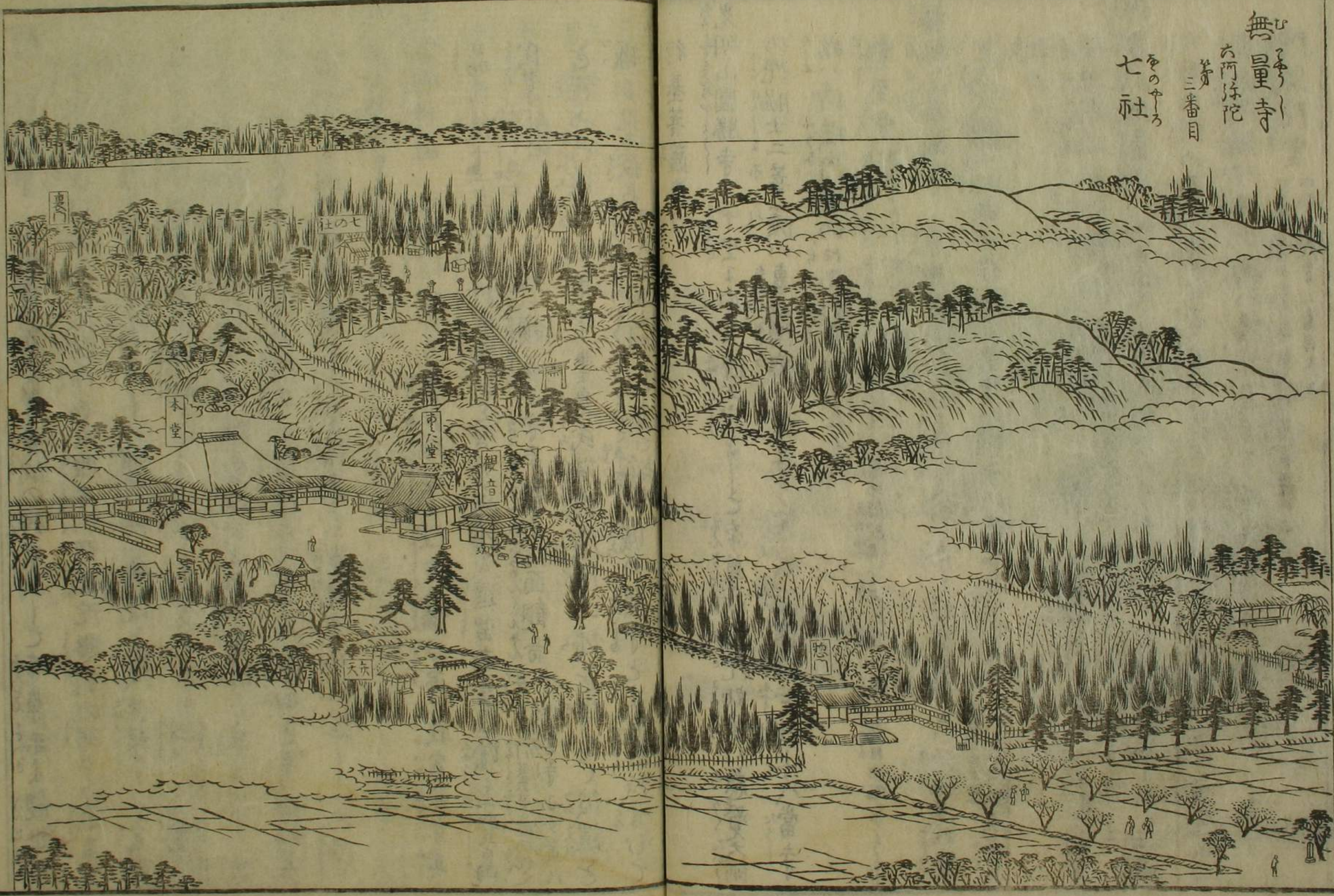
奉堂の右小あり奉尊ハ行基菩薩の依

阿彌陀堂

六阿彌陀堂三番目あり



無量寺  
六阿保陀  
三番目  
そのやろ  
七社





神陀山昌林寺 同所為の方より曹洞の禪宗より奉尊未本觀世音

菩薩八定山行基菩薩の作り往古六阿陀彫刻の折々未本を以て作りたるひとそむるハ補陀洛壽院と號其後久く荒廢

ふとよ小地は應永年中祥林といへる僧中與勢より後又宗最和尙に來り當寺と再興

昌林寺と號同十八年鎌倉持氏名の母堂深く是成信一堂宇と修營あり又文明の頃右回道灌二十余丁の畝田と寄附其

後大永年同の兵火は罹りて堂塔悉く炎焼す今はいふ一の傳の之は存せり

平塚明神社 平塚村小あり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟與

乃加前後十二年の戦終凱陣のころ此地は逗留ありて城主豊島氏某 義近ともより 鎧一領并小守奉尊十一面觀音 今味官寺小安置

と賜ふ其後元永年中豊島氏味内清浄の地と擇びて彼鎧と塚に築儀収れ 塚の形高ひつとを以て平塚と 城の鎮守とす且社以營じて

三連枝の像哉安 平塚三所明神と号 八幡太帝義家加茂次帝義綱 是義家兄弟の武功と欽崇因武運と祈らん為ありと云 別當と

平塚山味官寺といひ安樂院と号 味官寺の末中ハ 奉地阿弥陀 如來と安す 作馬廐の玉座あり 昔筑紫安樂寺の僧田圃修行之砌

此像とて小安置せりとそ 白鬚明神社 同所畑の中より祭神ハ猿田彦命より豊島氏

の勸請あり往古ハ平塚の味中ふありとそ 平塚味跡 平塚明神のありより飛鳥山の辺迄といひ鎌倉大

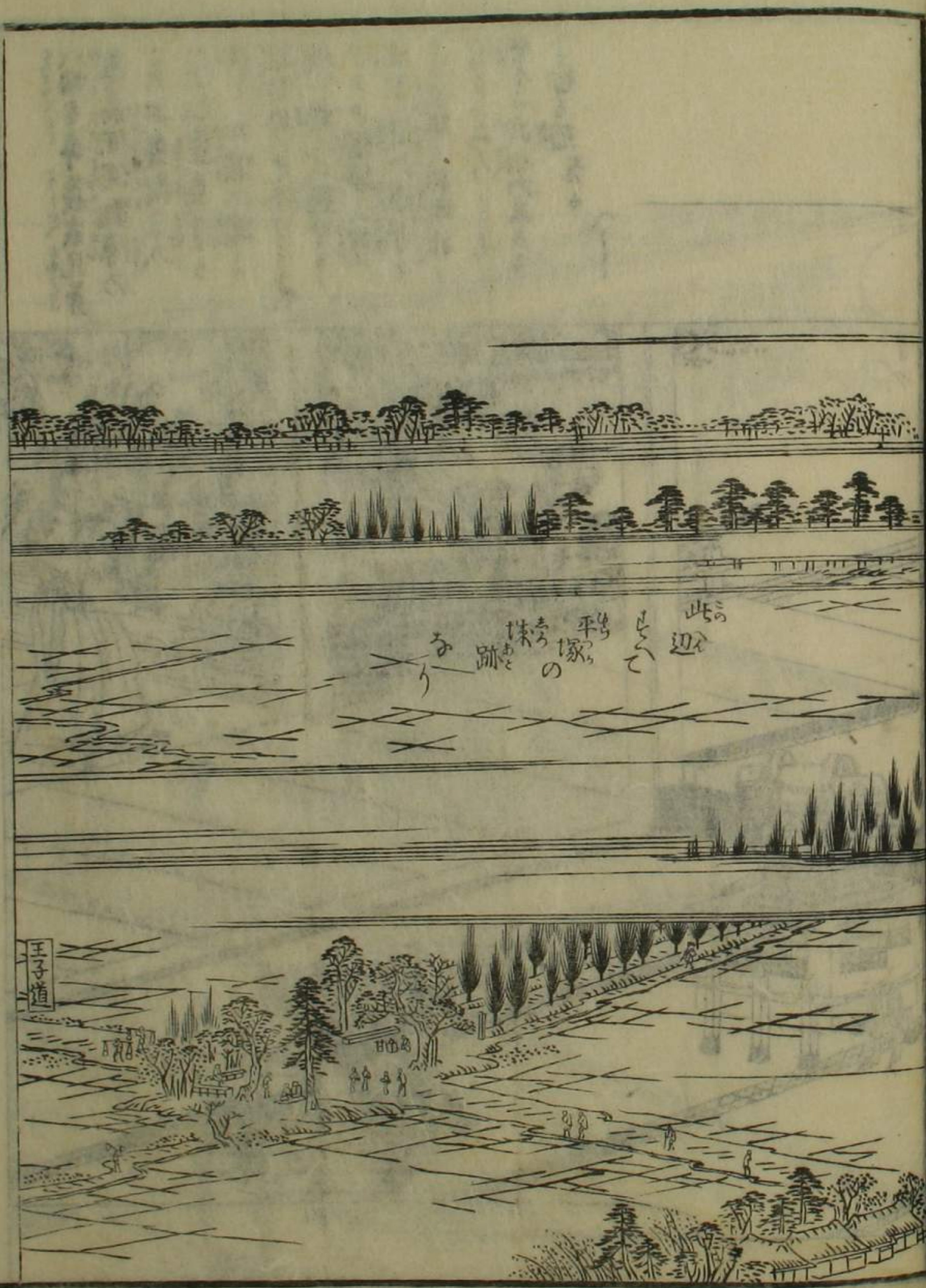
草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て豊島平右衛門尉ハ 平塚の城と取巻味外と放火して歸り々々小豊島足勘解由

左衛門と頼ける間石神井の味練馬の兩味より出攻ありりハ 右回道灌上杉形部少輔千葉自胤以下江古田沼谷袋と云ふ

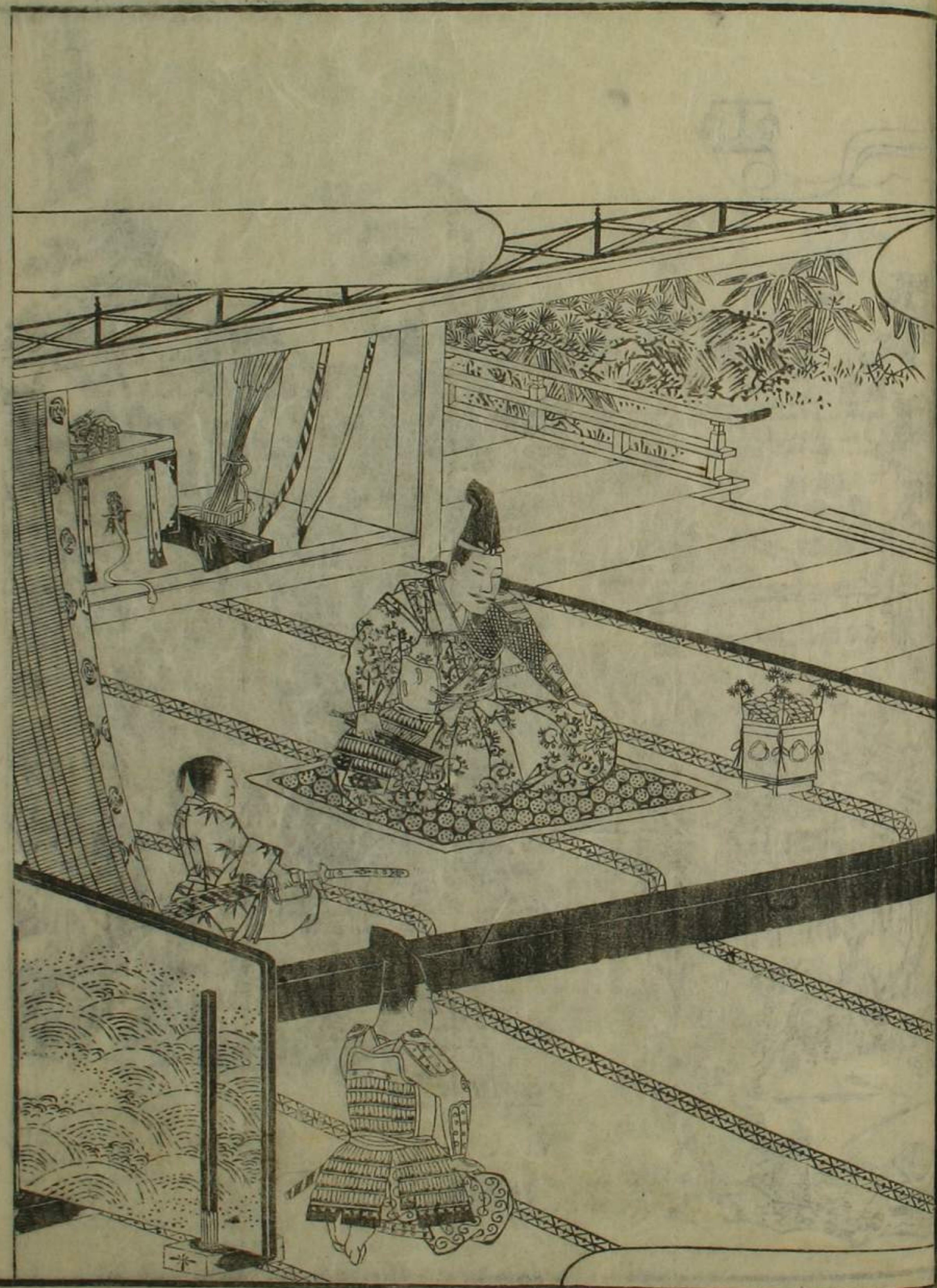
馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と始として板橋赤塚以下



平塚明神社  
 別當株官寺







八幡を討ち義家兄弟  
 奥加征伐凱陣の  
 ころ武藏國へ入  
 たかひ豊島某う  
 住し平塚の株よ  
 逗留ありてあつこ  
 遣一領を賜やう  
 けり後塚は築  
 ぬちて株の茂守と  
 平塚三和明林と  
 いつこつりも  
 實は武功のまろ  
 しむる極ある





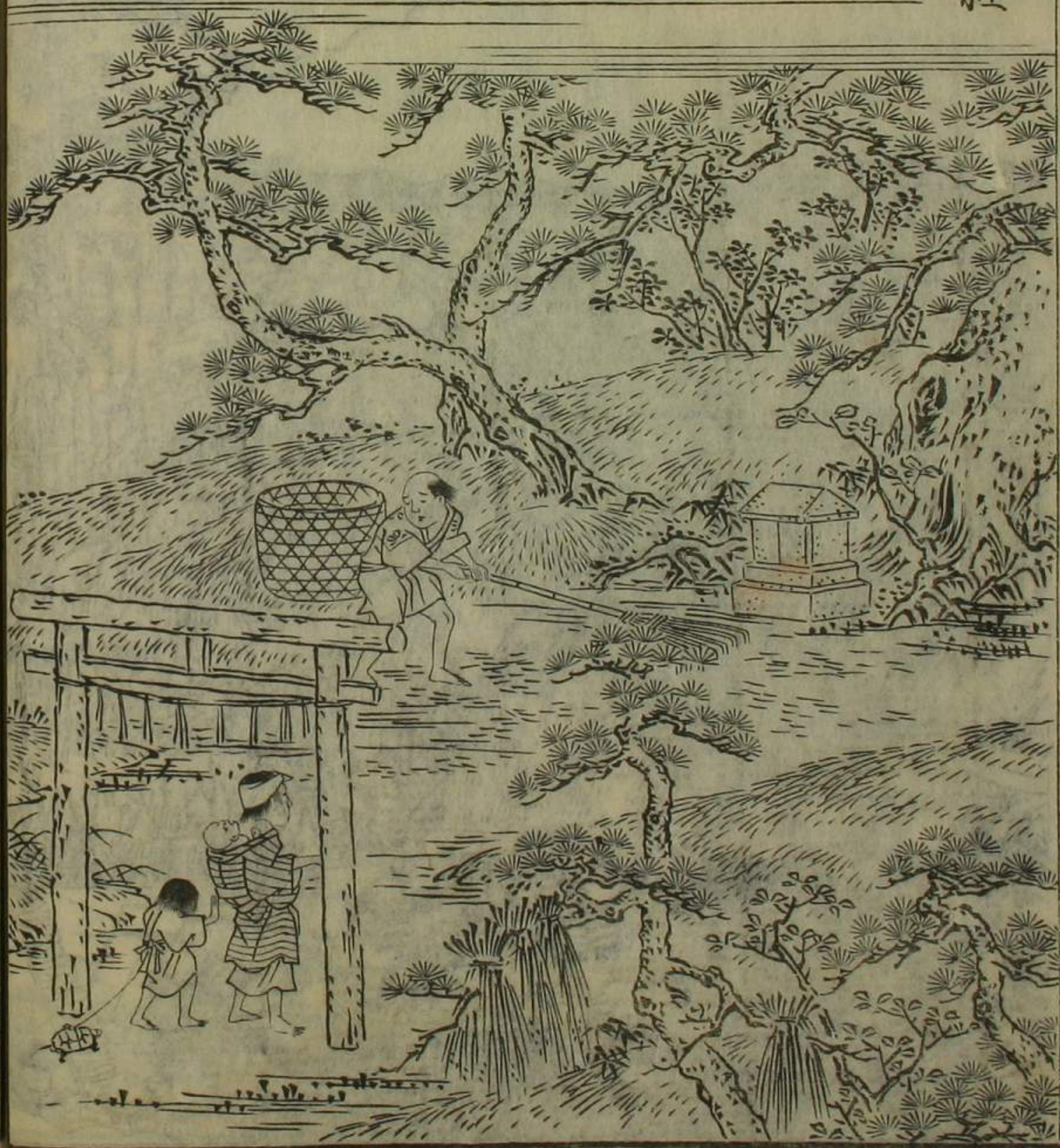
平塚城戦  
ひらつかのしほきょう



鎌倉大草紙  
文永十年正月  
廿五日道灌豊島  
勘解由左衛門  
平塚の要害  
押寄責々れハ  
其境設備して  
敵ハ程九回殊  
小机の味方親と  
あハ此平塚の  
事あり



白鬚明神社



百五拾人討死す 中略 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の  
 要害一押寄責々れ其曉没落して敵ハ九同株小机の株ニ  
 籠と云

大追物上覧地 同野道より右の方畑の地と指て云詳小林春齊先生

の作せる大遊物記お出きり 即て小略せり

飛鳥山 數萬歩小畑たる芝生の丘ニありて春花秋草夏涼冬雪

眺ありの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥祠と移す

事代主 命あり 因て飛鳥山の号あり寛永年中王子権現御造営の時此山

上はあり飛鳥祠と遷して権現の社頭ニ鎮座ありたり其後元文

の頃 台命よりて梯樹數千株と植させらる内ハ遊觀の便と

外ハ葛葉の爲す年と越て花木林とある爾より騷人墨

客ハ句と摘章と尋ね牧童推夫ハ袜と刈薪をとる殊よさらさ

中ハハの頃ハ梯花燦爛として尋常の觀ありは徳野の古式よ





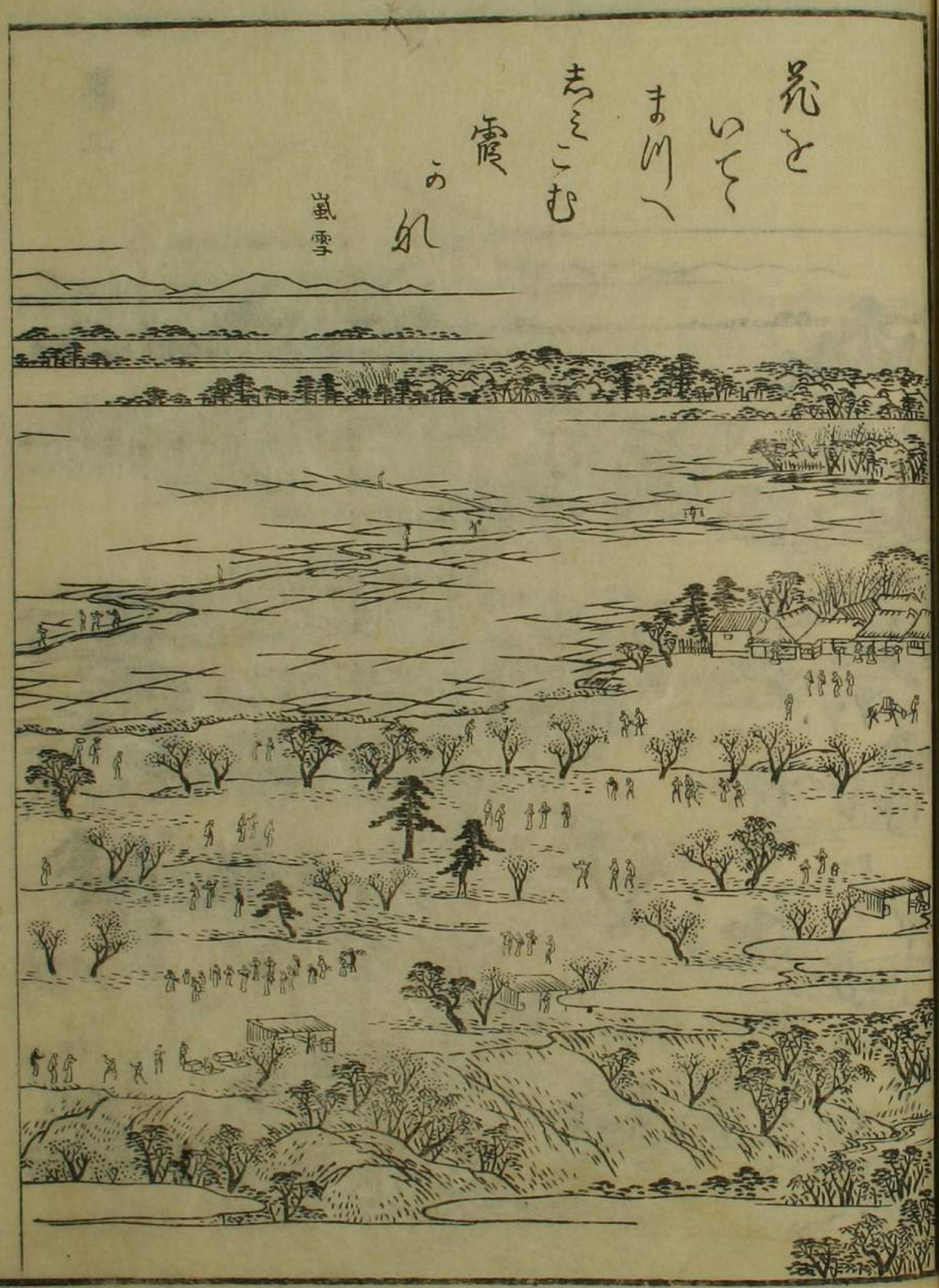


あすろま  
飛鳥山  
せんつ  
全圖  
あすろま  
飛鳥橋

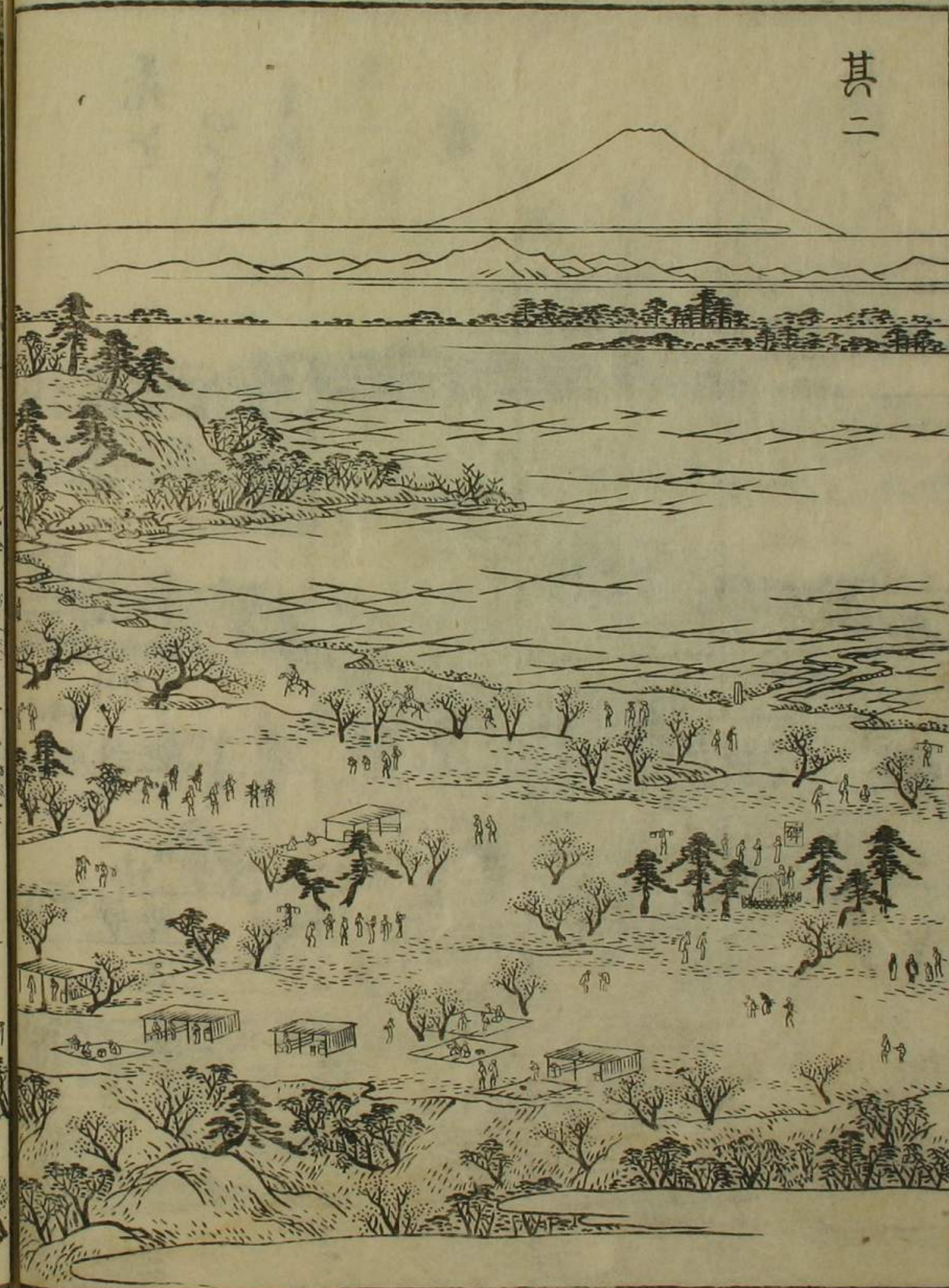
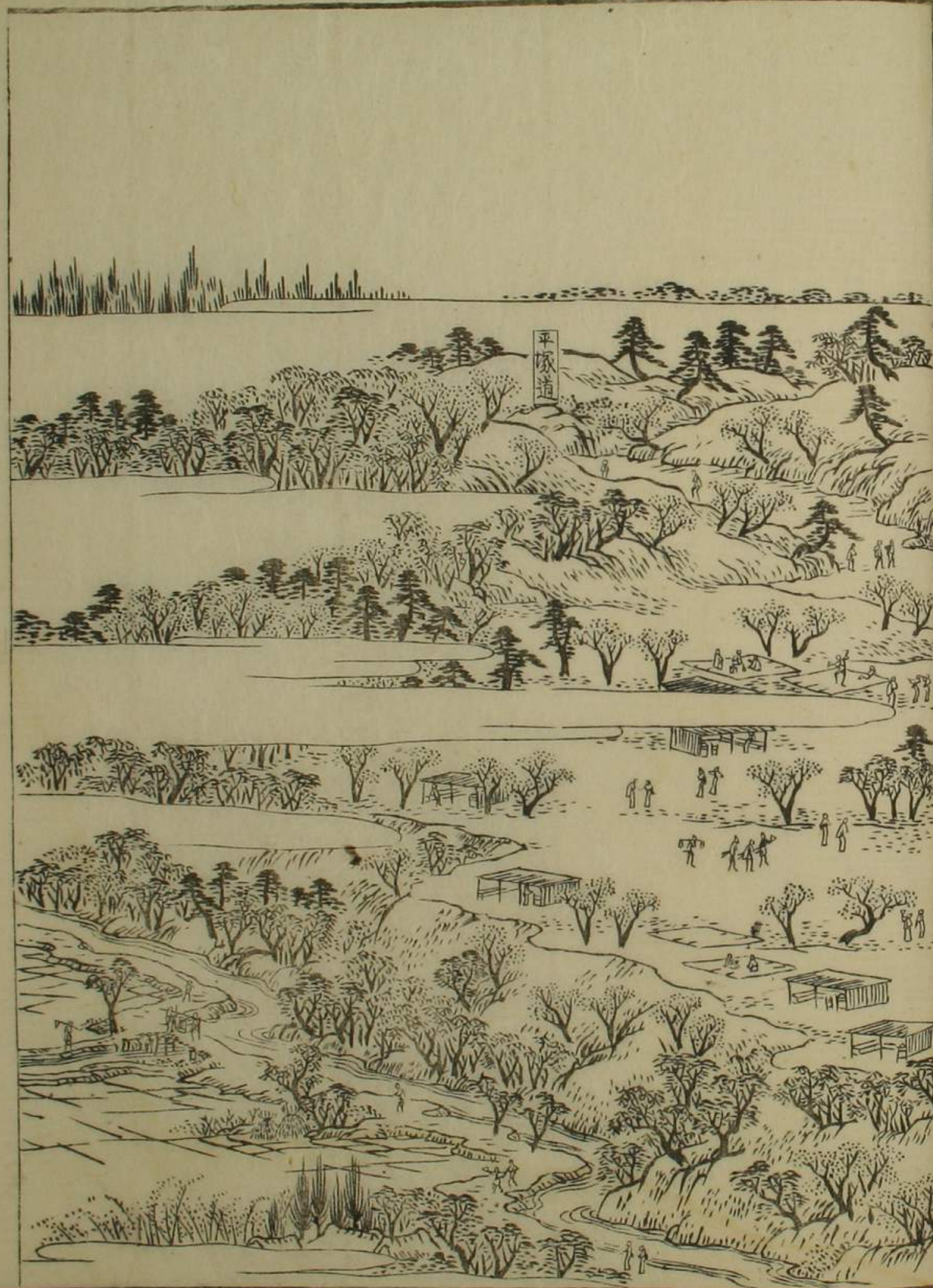


花と  
いて  
ま川へ  
まごむ  
震  
の  
外

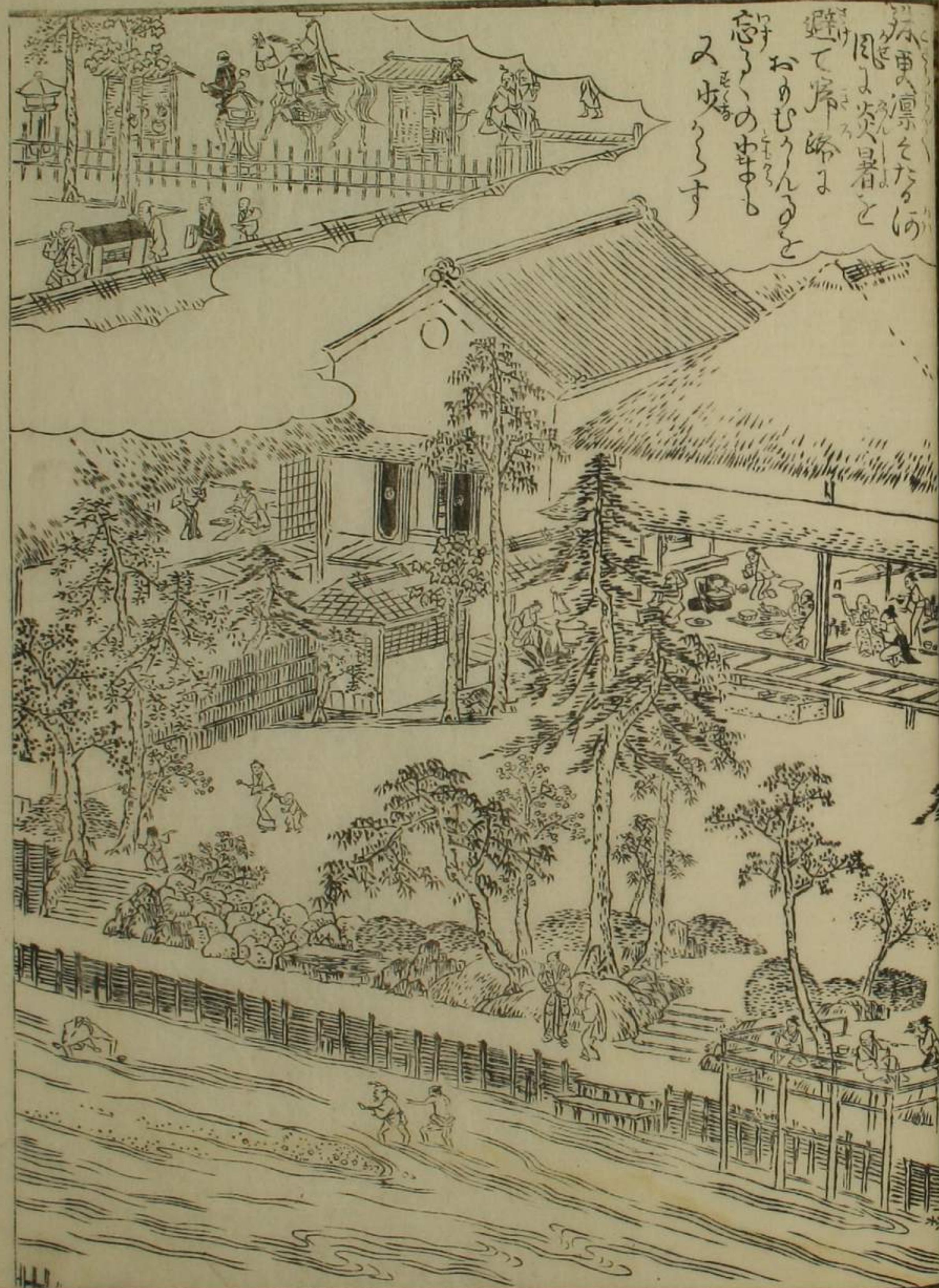
嵐雪



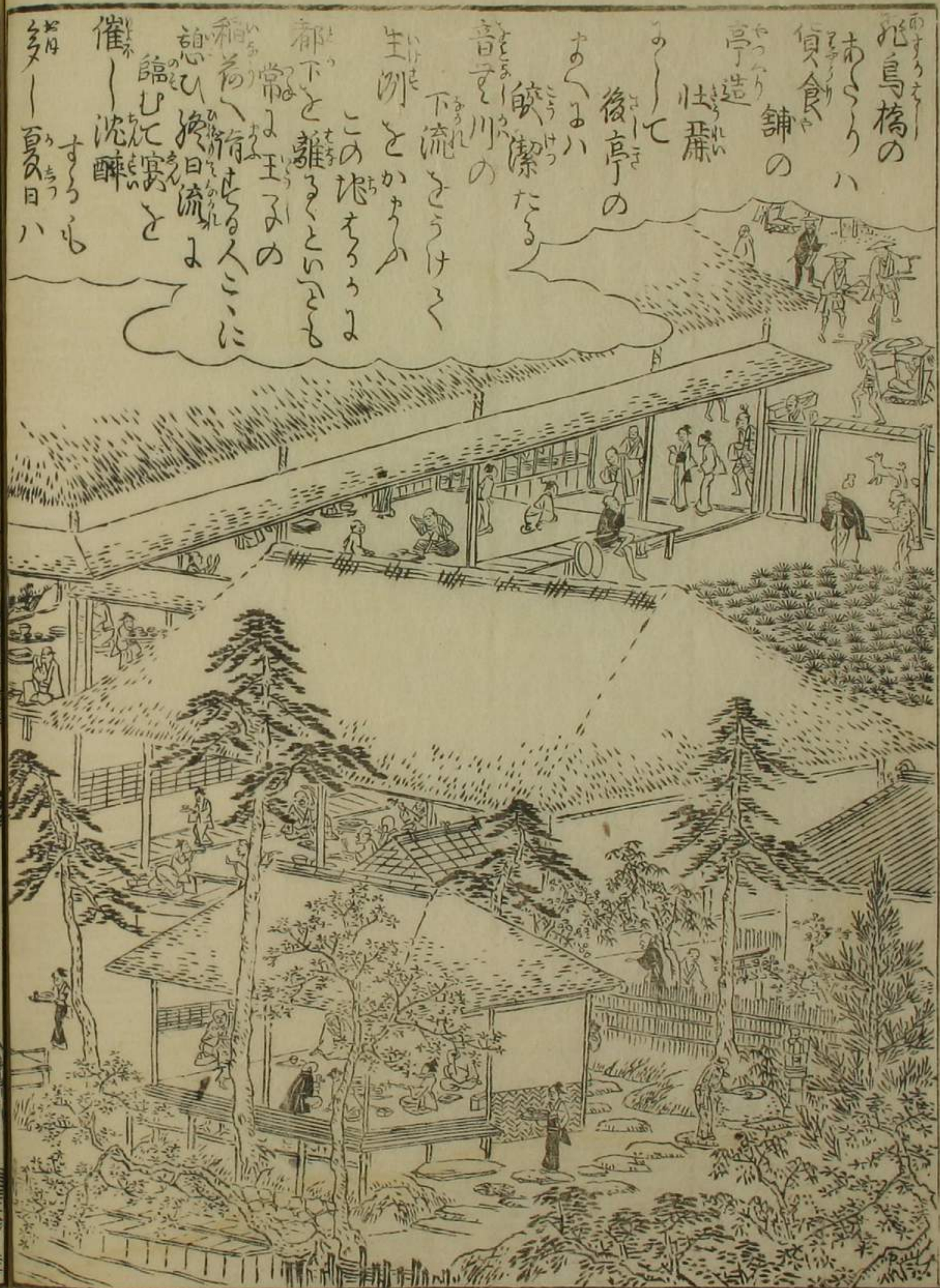








此の原をたると  
 月よ炎暑と  
 避て片路よ  
 おのびくんと  
 忘のゆきも  
 又歩くす



飛鳥橋の  
 ありりハ  
 賃食の  
 舗の  
 亭造  
 仕業  
 後亭の  
 後  
 餃潔たる  
 音の川の  
 下流さうけく  
 生例とかき  
 都下と難るといふも  
 常は王の  
 和の指さる人こに  
 憩ひ換日流よ  
 臨じて宴と  
 催し沈酔  
 多一夏の日ハ







王子権現社 飛鳥山の北の方音を河を隔てあり

奉殿 祭神 伊弉册尊 九速玉男命 三神鎮座

社記曰若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勸請後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新ニ祠宇と建て崇けり風霜

ぬり紫月深して朝の霧ハ香と林火とあやそ夜の月ハ燈と

挑み似そり霊神ハ人の敬よりて其威とま一境致ハ霊神の徳

小よりて其名と弘くはらう此神の奉と守れハ伊弉諾伊弉册

の尊と申ハ二柱のみこと國土とらみ萬の物とらやり其廣大の功

徳既ふ成て後伊弉册尊神退ま一々れハ紀列熊野の有馬村

ニおはちまらるる熊野大神是あり此神と祭るふ春ハ花とをて

祭り鼓うち笛吹旗立て調練て祭る白河院の御製ふ咲白ハ

花のけしとを見ふかろし神のんそをふ志らるるとよみぬる

花志らわの事あるへ此神の御子と熊野早玉男とまらり其第二

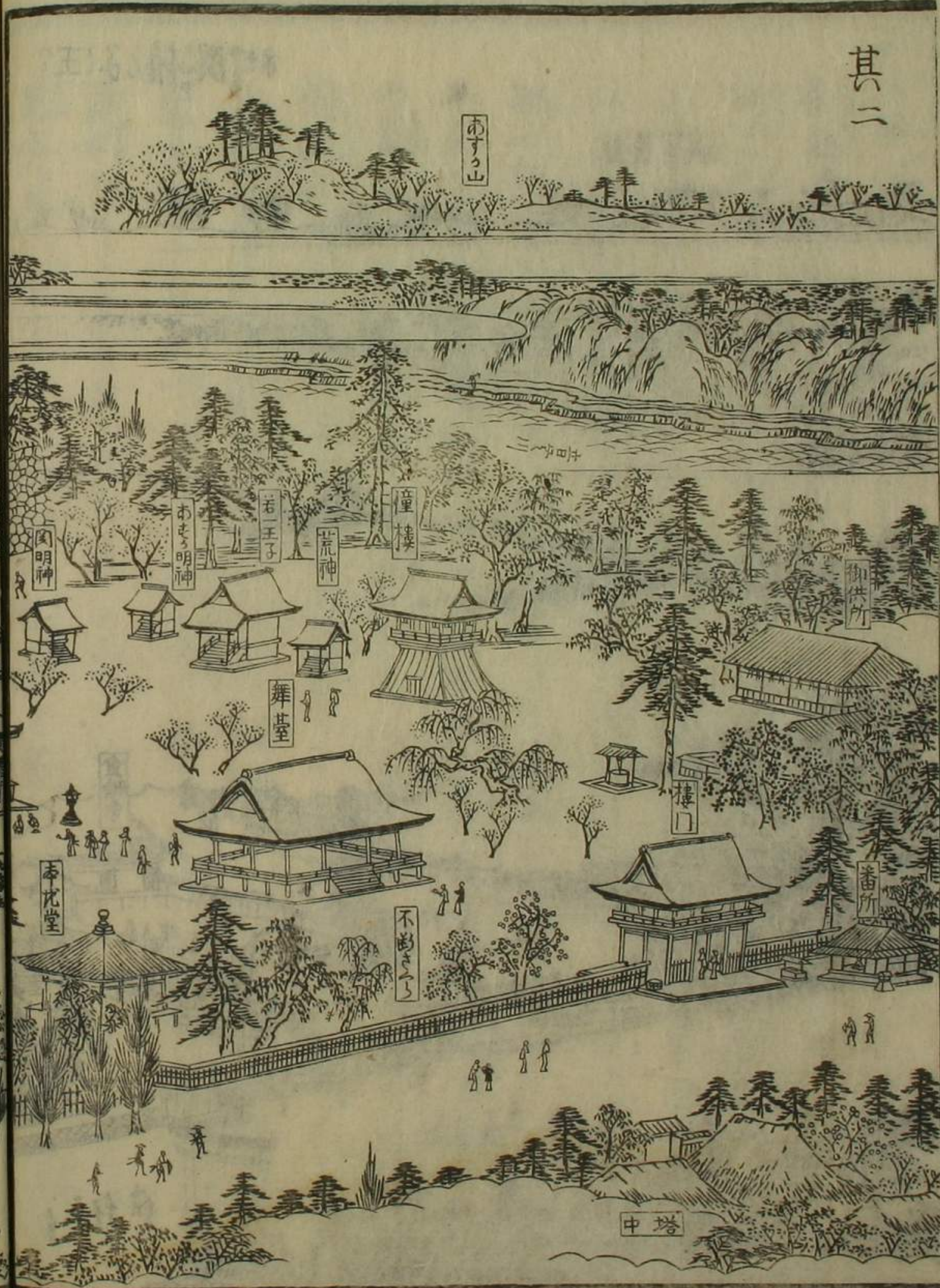
王子権現の社

山ろそあ





其二



暖又海

それの

々々々

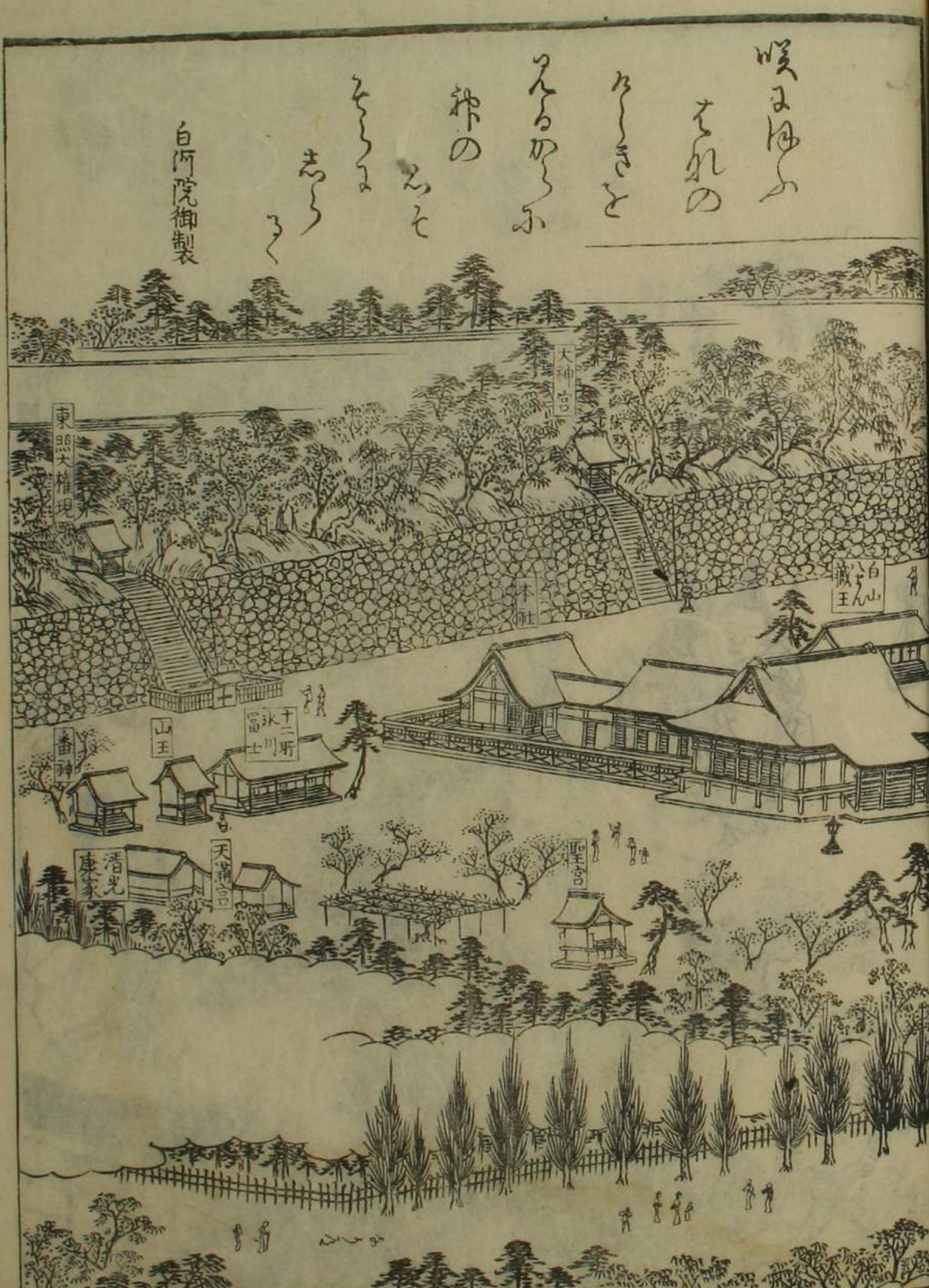
んんん

神の

ととと

ま

白河院御製







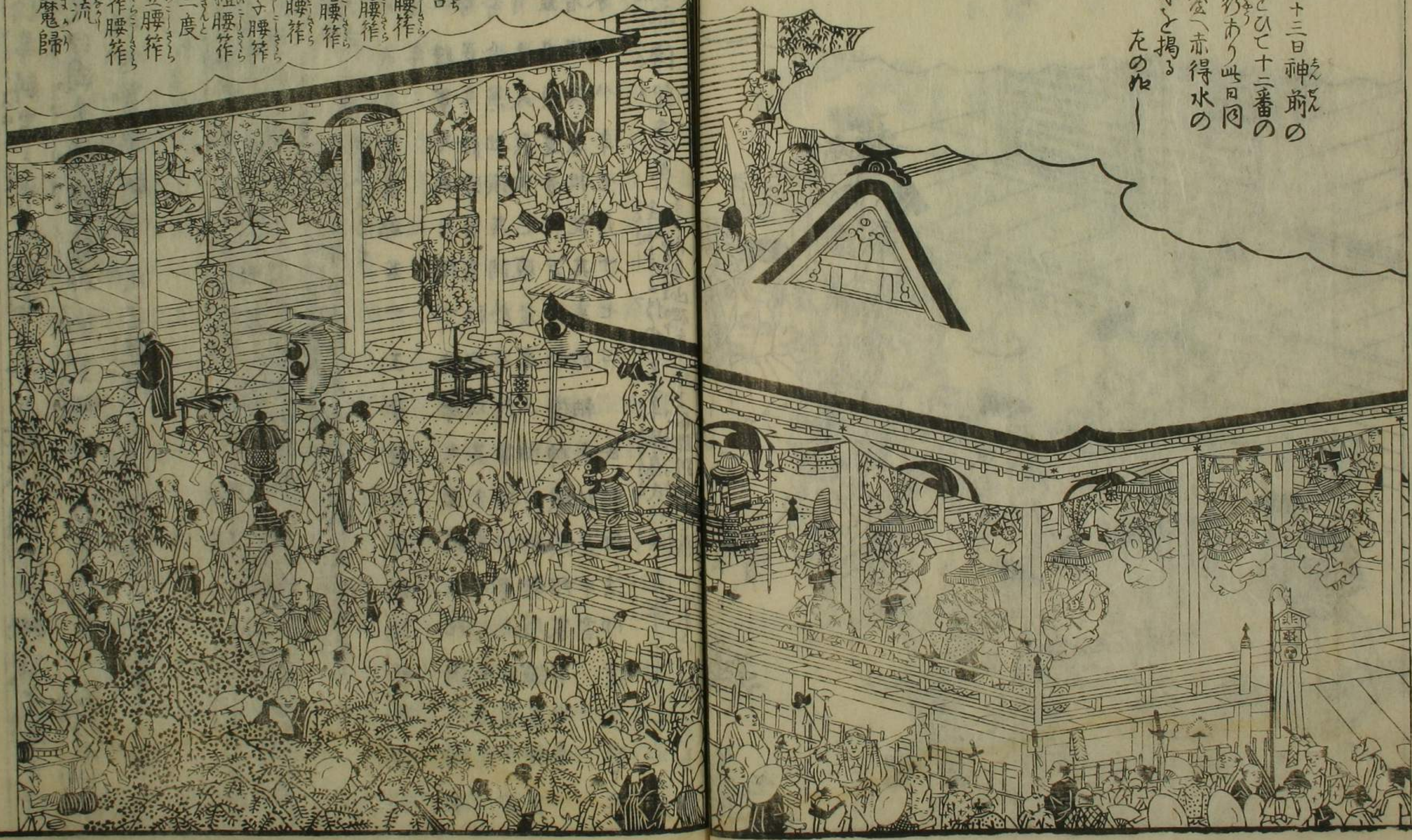
花壇の  
 祭礼ハ  
 今  
 たり  
 存せんり  
 古  
 摸寫て  
 加ふ



祭禮

毎歳七月十三日神前  
の  
拍板  
赤得水の  
掲げ  
左の如し

- 第一番 中門口
- 第二番 道行腰笏
- 第三番 行違腰笏
- 第四番 脊摺腰笏
- 第五番 甲居腰笏
- 第六番 三拍子腰笏
- 第七番 點禮腰笏
- 第八番 捻三度
- 第九番 中立腰笏
- 第十番 搗笏腰笏
- 第十一番 笏流
- 第十二番 子魔歸





と泉津事解男と申は延喜の帝の御時諸國の神社と記され  
一は紀伊國牟婁郡熊野早玉神社とあるは是なり此故小伊特  
冊尊早玉男事解男是と熊野三所権現といひをらへせり

小ありぬ

當社縁起三卷  
の内に以上廿八番八百六十文の地を附とあり  
當社縁起三卷の内に以上廿八番八百六十文の地を附とあり  
當社縁起三卷の内に以上廿八番八百六十文の地を附とあり  
當社縁起三卷の内に以上廿八番八百六十文の地を附とあり

征夷大將軍  
也頂年  
武加豐島郡若一王子社者所勸請熊野權現  
神勢民之軍尤大臣從一位源大君治世國之暇  
神勢民之軍尤大臣從一位源大君治世國之暇  
神勢民之軍尤大臣從一位源大君治世國之暇  
神勢民之軍尤大臣從一位源大君治世國之暇

熊野三神傳記壹卷

金輪寺に傳記壹卷  
熊野三神傳記壹卷  
熊野三神傳記壹卷

元山乎其測乎草神鳳福分語一至冥祀為色冊算唯帝本祀熊熊  
文碑不必之聖木而鄉八福禰神王二冥二旛邑尊所耶六官伊壁壁  
丁遂遷在謂者區秀聞咫二之子神中神鼓有既過智十五十冊神神  
已闊嗟結神出而可紀自之形配生物地舞窟生化乃起始里及三記  
之舊乎繩其不寧遠體人外惠於熊日象其跡今夢之生何建三速祀日  
冬史謹之而然知厥矣熊禰祠已物祠是之業尚神所灼而木史行距專婁  
東叙國神邪不土厥禰祠之則其惠新天號國本蓋以而去終所帝五宮命紀  
都中三其德蓋不斯赤磊山自其略速耶大常官古之遺俗也祀之紀以花結繩  
秘神疇不可神乎壚而而海世略速耶大常官古之遺俗也祀之紀以花結繩  
書事不欽擗之豈而而肥麗而所也玉智神亦又尊云遺俗也祀之紀以花結繩  
監此哉如跡密與神水時各有飛王其宮或七關焉之祠結繩馬神冊  
源鳳卿日神盤右降焉固其其所存者凡號焉之祠結繩馬神冊  
鳳卿日神盤右降焉固其其所存者凡號焉之祠結繩馬神冊  
子陽謹識



大般若經卷第三百四十九 行卷之傳之の余八室曆六年上の院屋村正法寺

奉施入武別豊島郡能洋権現御寶前文保二年戊午初秋

大施主衣法門尉平行政教白とあり 千鳥屋風一雙 狩野古法眼元信の

古證文二通 奇附の證文あり

蘆屋屋塗一〇 共小余氏直

祭禮 例年七月十三日ふして十貳番の拍板あり 此日王子の童み

て終固の祭終て後奈宿の貴儀彼序と推考して終り火災盜難と除くの守護と成是

も古よりのお徳とて大え一其か一季七十余度の祭に連綿として國成安寧五穀豊

饒の徳慈愍あり

奉地堂 奉仕の元あり除陀薬師千手 卷一王子宮 奉社の右ふあり新宮天照

飛鳥祠 同前ふ並みか神ハ奉代主の命あり元亨年中豊島元法門ありりの

遷坐 康家清光社 同奉社の元あり是豊島を所康家同権頭清光父の

樓門額

# 豊島宮

仁和寺覺深法親王真蹟

當社ハすして紀列熊野山の地勢と寫し前ふ音サ川の流とらけて

風色真あり花の時の花とめて祀といふ神真小園もや社頭へ

多く梯樹と植て春の頃ハ境内殊々觀賞ありあり亦冬月雪の眺

金も代小勝まあり

王子稻荷社 同北の方あり往古ハ片稻荷と号し今當社より出すと

ころの牛養宝印ふ志り記せり

奉殿 倉稻魂命 聖觀世音 藥師如来 奉宮 十一面觀世音

王子権現縁起曰われの世ふありん此社の傍は稻荷明神とら

いそひたるハ毎年臘晦の夜諸方の命歸此社集り來ふ其としせら

火の連りつけら奉をくそくの松明と並ふる如く數解の螢と放

花しむふよ似そり其道野山を通ひ河辺をかゝる不同と見て明年の

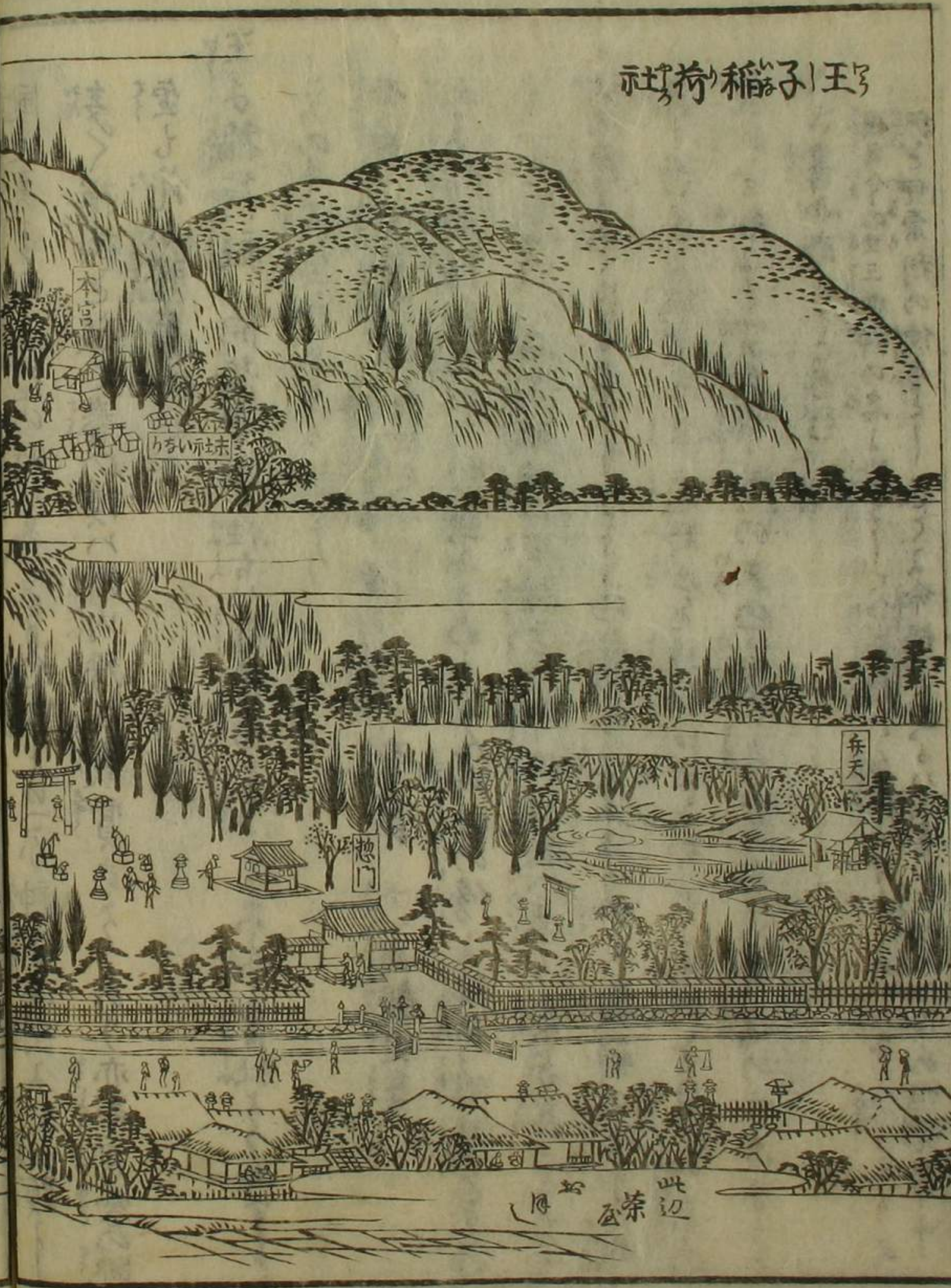
豊凶と知るとは命婦の多の白と九の尾ありハ奇瑞のりのありと

有さ書小ありとあひ下畏

因云今の世三狐神の名に附令して伊奈利と白狐とすらりのハ大あり

狐と伊奈利の使者と一又こよ命婦ととらハ武書に云後小松帝の明徳年中









毎歳十二月晦日の  
 夜諸方の狐影しく  
 こゝに集り来るも  
 恒例にして今も  
 然り其燈せら火  
 影ふ依て土民明  
 年の豊凶と  
 と此事霽月よ  
 ありやうと  
 何ぞて時刻定る  
 事外

衣裳櫃  
 衣裳束帛



十八講

毎歳正月十七日  
王子村農家よ  
是と行ふ當日  
権恩の別當金輪  
寺の住持と  
誂請一酒飯の  
資毎半小して  
當番の百姓并  
板登魚盤の  
三品と携へ出て  
のめそよいやさの  
を聲とあして  
食とまむむ  
是此地の舊  
例として  
十八講といはる  
神領十八箇  
村あり一頃の  
旧村といふ

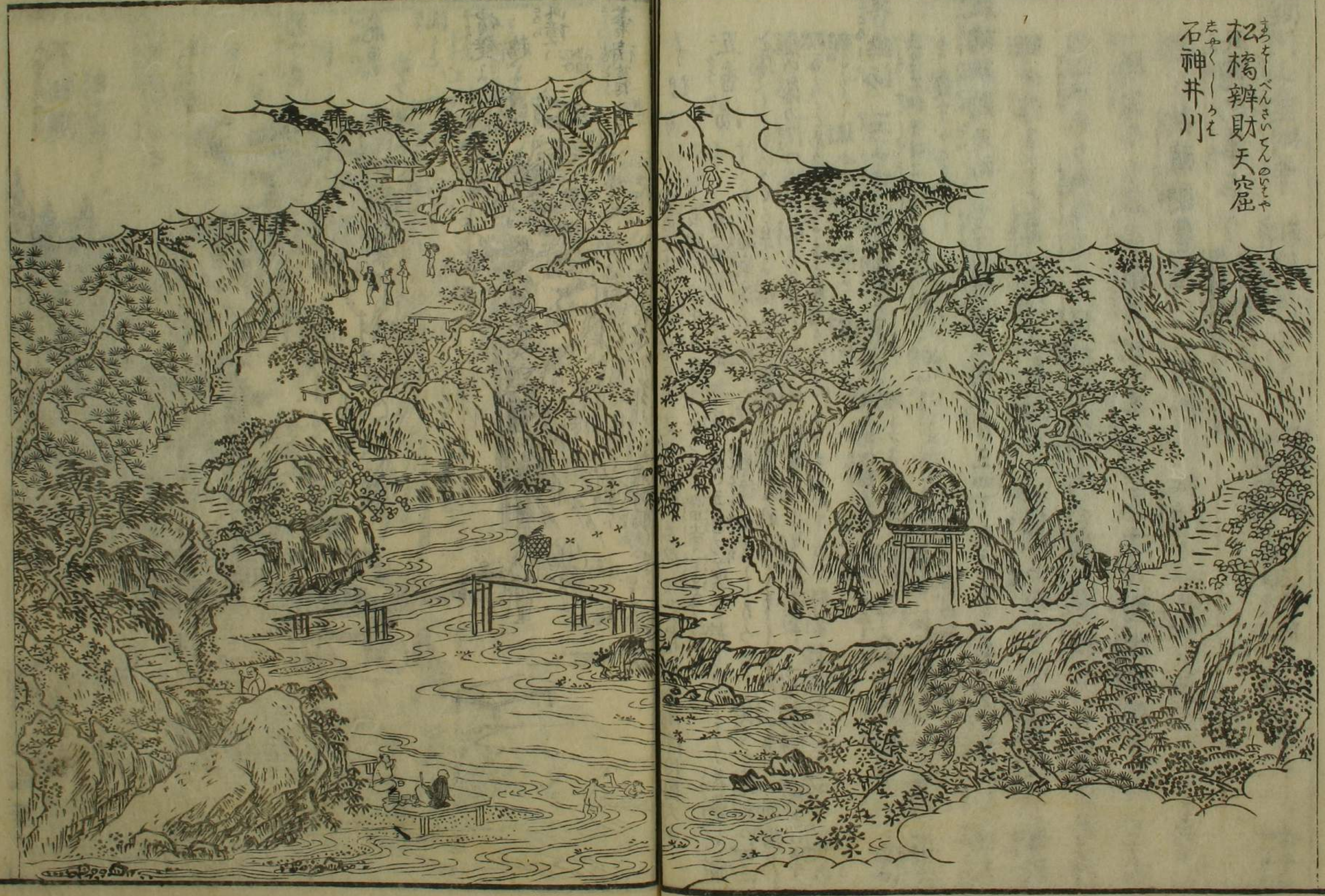




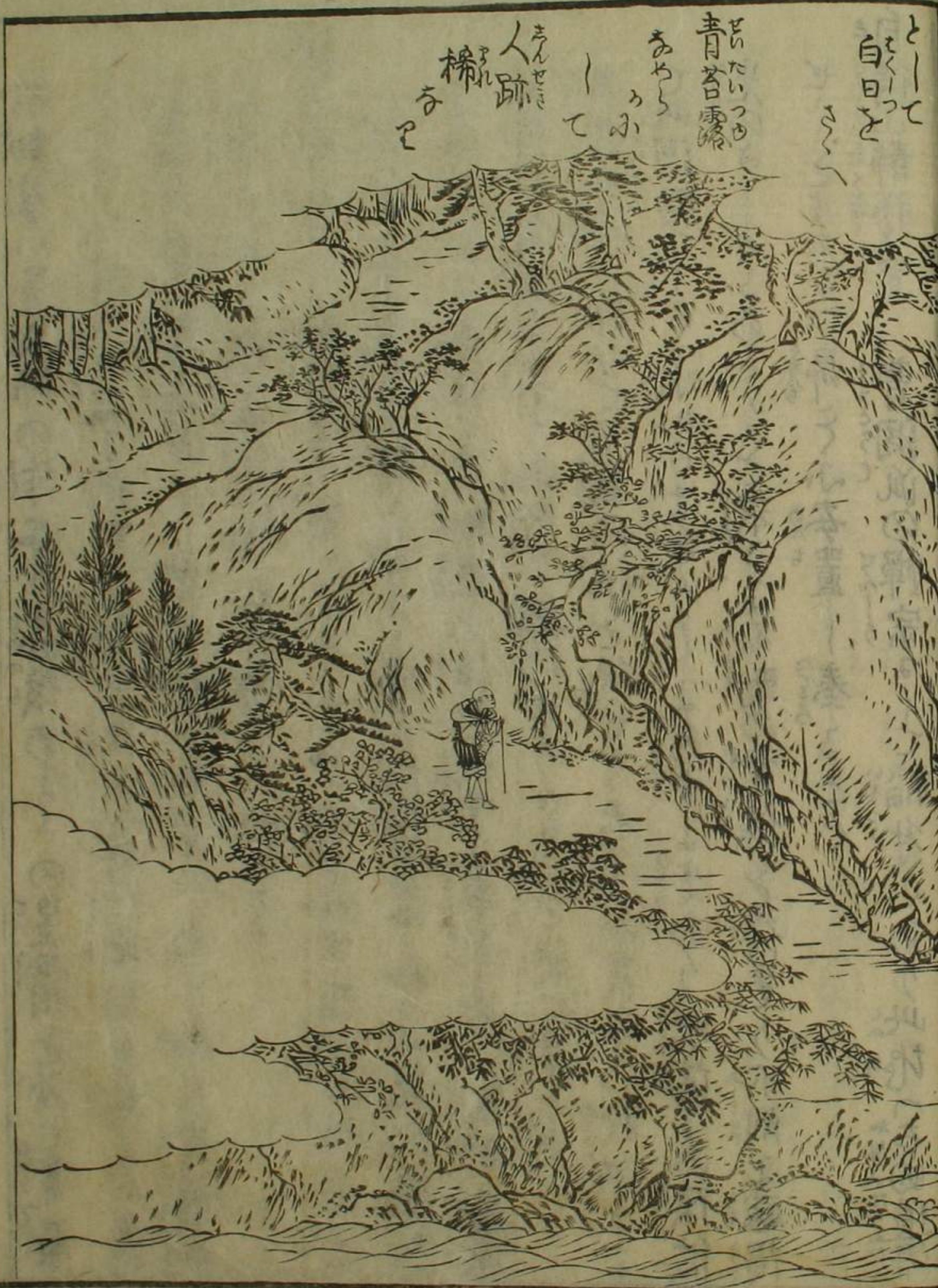




まきべんさいてんのいしや  
松橋辨財天穴  
まきべんさいてん  
石神井川







といて  
白目と  
青苔露  
あらし  
人跡  
棉



不動龍  
泉流龍とも云  
正受院の本堂の  
後坂路  
松十歩  
飛泉  
滑り  
峭壁  
此境  
常  
蒼樹







あつた常よこ小在て詩歌をたしむ仍殊北は管神と勸請し祠  
城建る今の津味西平川此時兩上校病后上校修理を夫定心権とらつそひ  
平ふこそと後小間計を以て定正は道灌とうたふしびふふのめて  
定正人として灌を浴室小刺殺さしび時小文明十八年丙午七月廿  
六年五十五歳相易糟屋四昌死よのそびて云く余を害するは定正は家  
の北なりとそたして定正威衰一再ひ振ひは灌をより先實正年中  
上流す 勅してびさし其の勝景を向しむ和哥を以て答奉る  
露路並ぬ方もあり夕立の空よりひろさびさし其の原  
又平生の眺金成とそむむ  
家庵ハ松原つさ海をく富士の高根と軒端よととる  
此時處感のあかり 御製とたまふ  
むさし一燈の高萱のこと思ひしよかる言葉の花や咲らび  
又ある時 勅して角田河の都鳥とといへた中ふよ

年少れとそやうと志らぬ都鳥角田河系よ宿ハあれとも  
其餘の和哥ハ歌の集よザつと記てこよ畧ん

赤羽山八幡宮社 ありを存びつるあり社傳云當社鎮座の年歴ハ  
久きをよして詳をくはとそ中古大は荒廢よとよひハ文明の頃  
左田道灌再興ありしより祭禮怠る事を一神宝は獅子の頭  
一個古き面二枚あり  
川口渡 往古のころはち 義經記ふ九帛傳曹子真の功より鎌倉よ至めんと  
いふ條下は室の八島をとらよて武藏四豆立郡ころをちよ著たふ  
傳曹子の津越ハ十五騎よそなりふたる板橋よをせ附て兵衛佐殿  
へと同たアハハとてひとを立せめひて候と申武藏の四府の六所町よ  
つきて佐殿と仰けれぬとてひ通らせたりひて候相摸の平塚よと  
こそ申々ると云  
按は渡場よりま丁程南の方の尤も府中道と記せり石標あり是往古の奥の海道あり  
是より板橋より府中の六所町より玉川と流りて相摸の平塚ハ此なり



懸雲燈  
圓通閣  
灌公祠  
梵鯨樓  
古城砦  
樓羈壕  
靈龜池  
蟠松岡

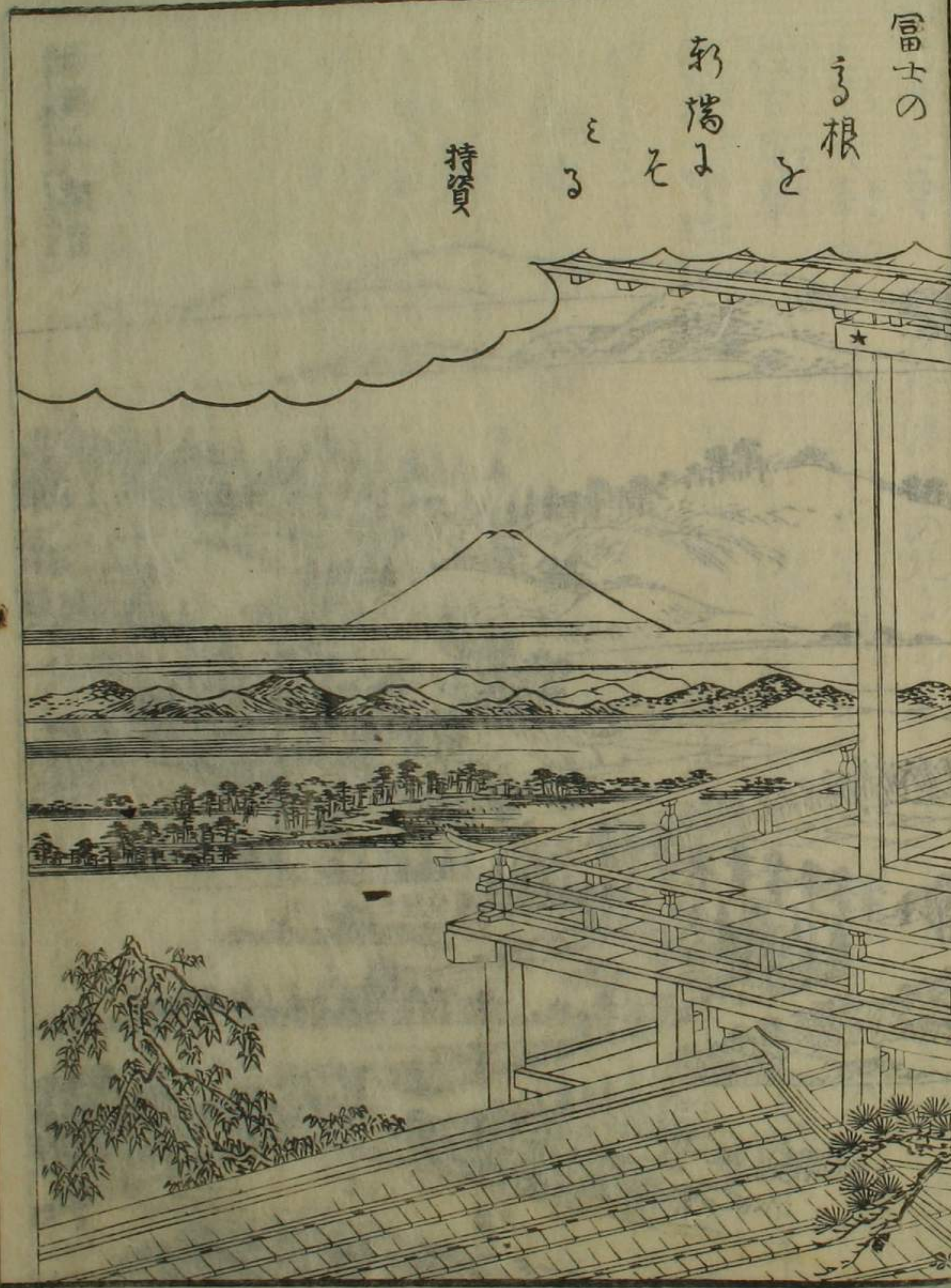
右當寺の八勝  
あり筑波石正  
倚の詩あり是  
と畧ん



静勝寺  
龜ヶ池  
五葉松







富士の

ま根

新瑞

とそと

持資



灰庵

松原

つみ

ち

く

右田持資

倉重亭より

士峯とを

和哥と詠す



赤羽山八幡宮



川口善光寺

川口村渡場の北よりあり天石宗中にて平等山阿弥陀院

と号し奉堂より阿弥陀院に來觀音執至一光三尊と云す寺傳曰

往古定尊といふは門あり法華經と誦すは外化を建久五年

の夏一時睡眠の中より信の善光寺に來の靈告を得る事あつて速に

かこまらして正しくぬ來の聖容を拜し示現に依て十方を勸を

財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年

己卯五月十五日あり

又脇に觀音執至の二尊と鑄奉る終に堂宇を建立して善光寺と

號し當佛の頂と摩訶ことともは宛眼またよふに當寺縁起不詳あり

二王門の額に平等山とありハ黄壁木庵の業あり

豊島驛 今豊島村と号する地其跡もして往古ハ此郡の府あり

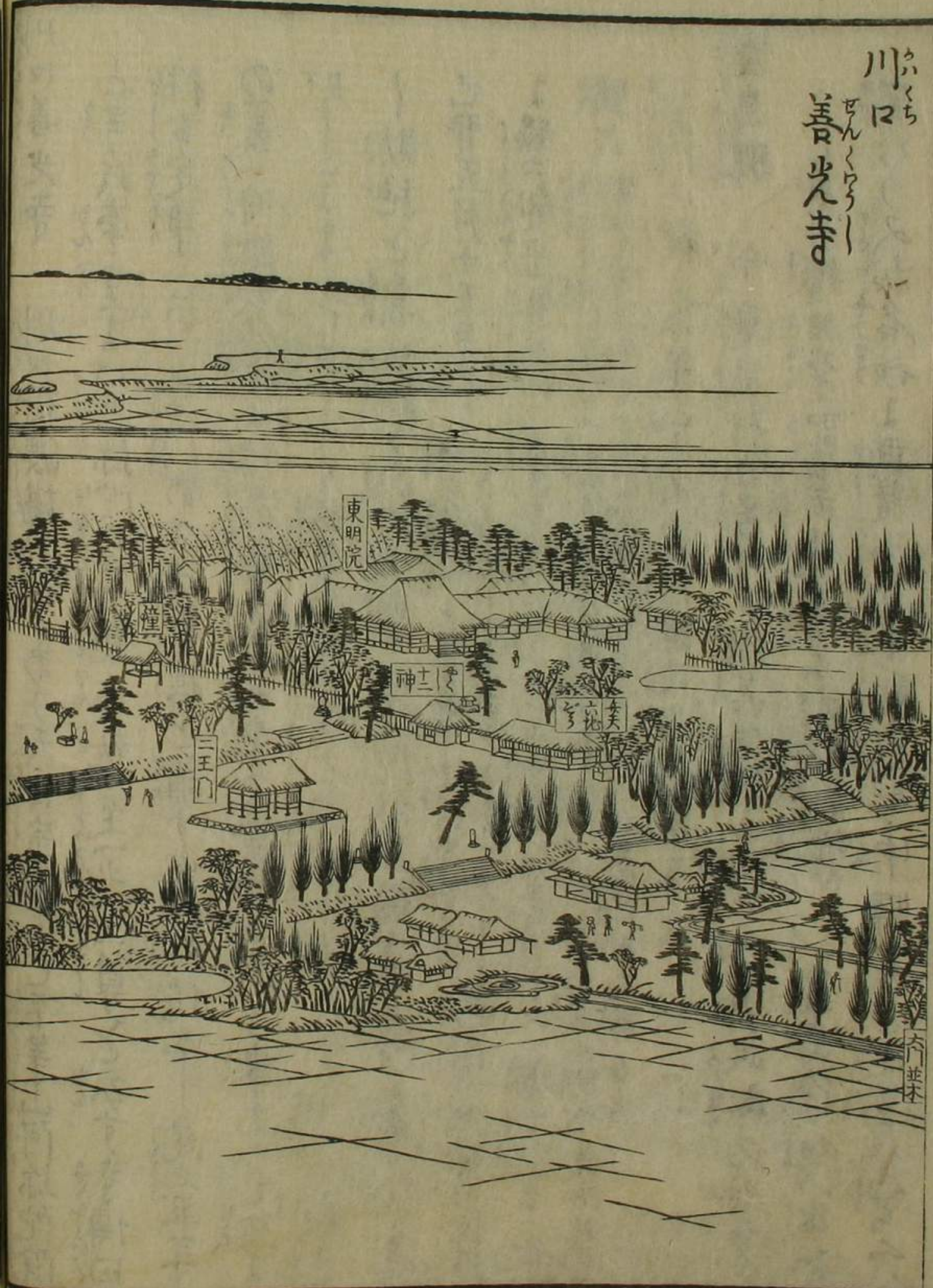
一と見ゆ續日本記に武藏國衆宿 豊島の二駅の事と

驛たり又和名扱に武藏國豊島郡とあり中驛家と記せるは忍ら六

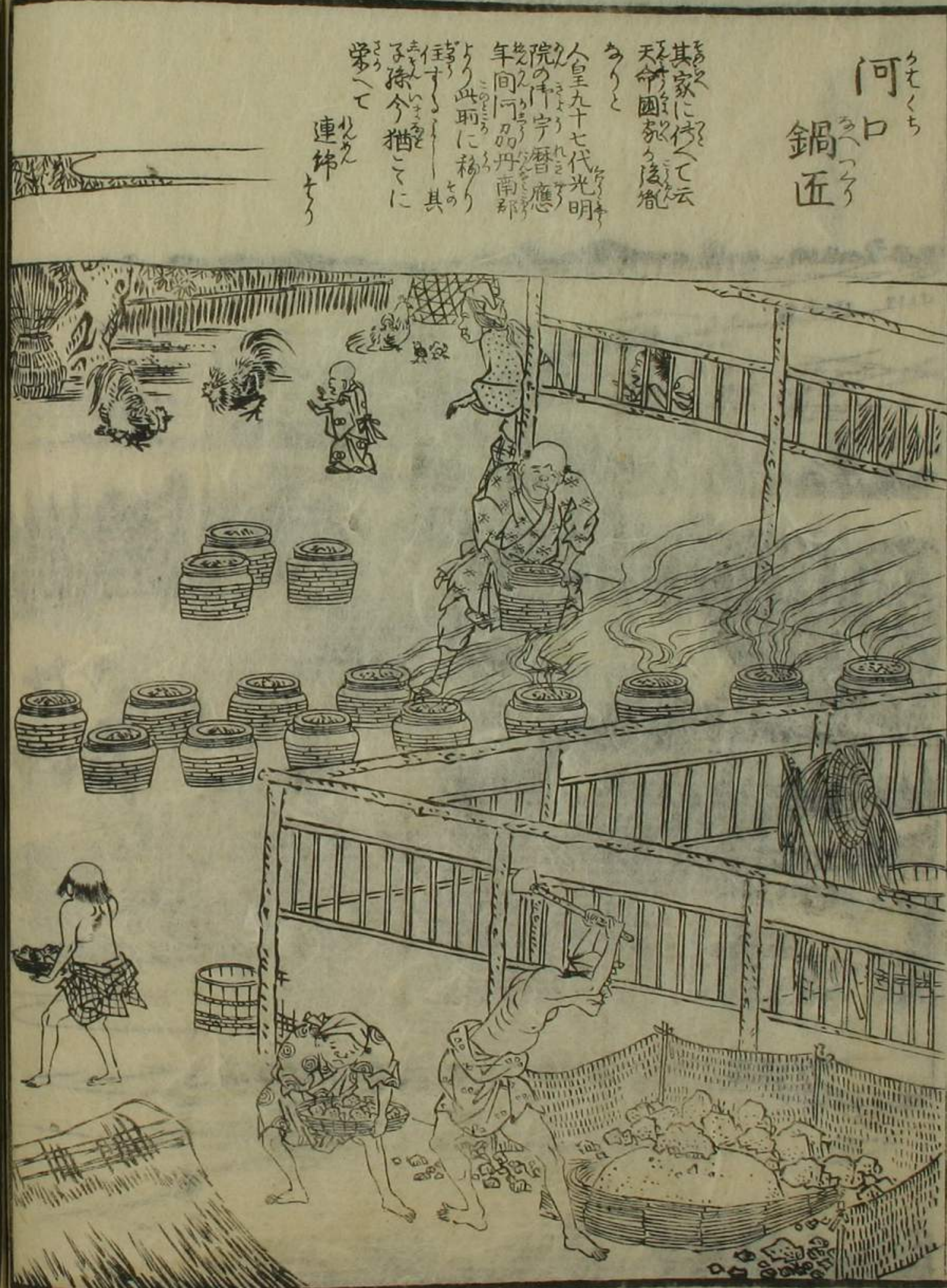




川口  
善光寺







河鍋匠

其家に傳へて云  
天命國を治る  
あつと  
人皇九十七代光明  
院の伴宇智應  
年同河鍋丹南郡  
より此所に移り  
住す其  
子孫今猶こに  
榮へて  
連綿  
とす



鍋屋の井  
せよ各



此地ありん故 豊島郡 義家一は 中世の戦と云ふ東鑑に仁治二年四月廿五日の條下りて  
大宮三屏盛負豊島又を屏時光と武藏國豊島を食各と相争ひ大宮の有忠四一羊と打  
より事起るとあれハカク鶴氏代々住せりと見えたり又鎌倉大草紙に文明九年豊島勘解由  
左衛門尉泰經舎弟平右衛門泰明平家の味ありて道灌といと戦ひ焼く討死し明十年  
正月泰經とあれハ文明の頃ハ豊島村の地あり住せり一あん永保年中北条多限帳よ  
る四新六屏知行の中よは此豊島の地名と加へ按よ永録の頃ハを田新六屏知行  
せりと云ふなり

三縁山西福寺

豊島あり 禪宗よして 行基菩薩の完基あり 奉尊

阿弥陀如来も同化あり

豊島権頭清光建立 當寺ハ六阿弥陀尊壹番目よ

是と元木の如来と云縁起あれとも未詳ありハ四巻目小石川

光圓寺の糸下と懸一合せて見ると

梶原塚

梶原堀内豊嶋川の河曲堤の奉あり

此塚ハ左内美濃守入道眞正 法名道善又の次男梶原源右政景の

墳墓あり 梶原上總介の後家養育みしとせ 享保の頃迄ハ石碑石檀ありり

洪水の時豊島川一崩れ込けりとて今ハ小巻の中よ一株の杵のこ存

せり 梶原塚内よははれ分の地と加へたり

又平塚明神の北花鳥山



西福寺  
六阿比陀  
茅壹番  
梶原塚



六

阿比陀

かけて

あく

らむ

石とく

まへ

其角





梶原塚



の麓に今梶原屋鋪跡といふ所あり按ずると是も政景の弟  
 宅の地ありん

毘沙門山清光寺 豊島村にあり真言宗にて豊嶋権頭清光の兄  
 基あり奉尊不動明王の清光建立あり七佛の隨一なり清光の頼朝  
 の父長よして當寺ハ則清光舊館の地ありと云  
 釋迦堂 慶應寺あり是も

豊島を帝康家同権頭清光墳墓 岡野に古松一株あり土民是を  
 稱して豊嶋の大松といひり 康家の清光の

紀加明神社 清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十猛命大  
 屋津姫命 執津姫命 三坐あり

日本 紀神代 卷一 書曰 素戔嗚鳥 尊之子 號曰 五十猛  
 命 妹 大屋津姫 命 次 執津姫 命 凡 此 三神 亦 能 分 布  
 木種 昂奉 渡 於 紀 伊 國 也 云 云  
 社傳 云 往 古 豊島 氏 某 王 子 權 現 之 勸 請 せ 願 彼 地 之 未 社 也







鎮坐ありけりよ故あつて天文年中今の地小宮居と移せしと當社ハ  
 昔より豊島村の産土神として祭例ハ毎年九月十八日執行ハ  
 紀伊の末の彼地ハ屋司の觀音堂 因所あり奉尊ハ昆首羯磨天の佛ありと云り此地も  
 後裔ありと云り 豊藏堂 豊嶋川の端あり龜島山専林院と号し奉尊地蔵菩薩ハ  
 行基大士彫刻の靈像として豊島左衛門尉清光建立あり七佛  
 の一あり宝永二年乙酉祐天大僧正此地の住人白倉四郎左衛門といふ  
 りの助は依て再建しつゝ四年正月廿七日入佛供養あり僧正其願  
 群衆の男女十念授與ありし舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら  
 冥眼ありし一拾九家の壽像と置名号と添らる 俗是と稱して地蔵の名  
 訶羅多山地蔵尊是も僧正の奉地佛として自ら冥眼ありしとあり  
 若宮八幡宮 因所あり島川の端あり當社の豊島權頭  
 清光の靈と傳ふところあり

終畢

江戸名所圖會玉衡之卷

五冊目



